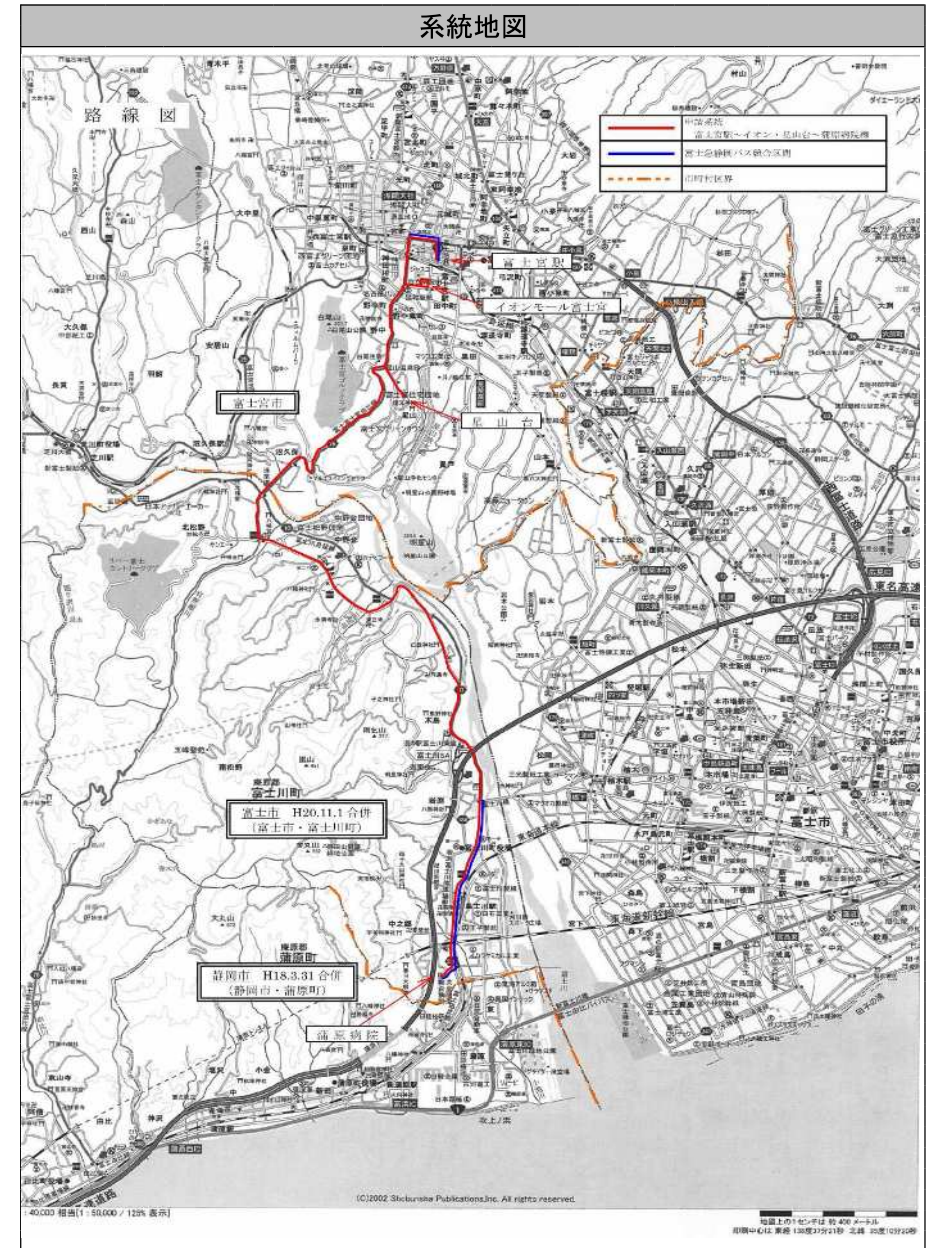


# 令和5年度運行分系統別利用実態 (公表シート)

山梨	交通	…	1
秋葉バス	サービス	…	2～5
遠州	鉄道	…	6～24
しずてつジャストライン		…	25～35
富士急モビリティ		…	36～39
富士急バス		…	40～41
富士急静岡岡	バス	…	42～45
富士急シティバス		…	46～51
伊豆箱根	バス	…	52～55
東海	バス	…	56～61
水窪	タクシー	…	62

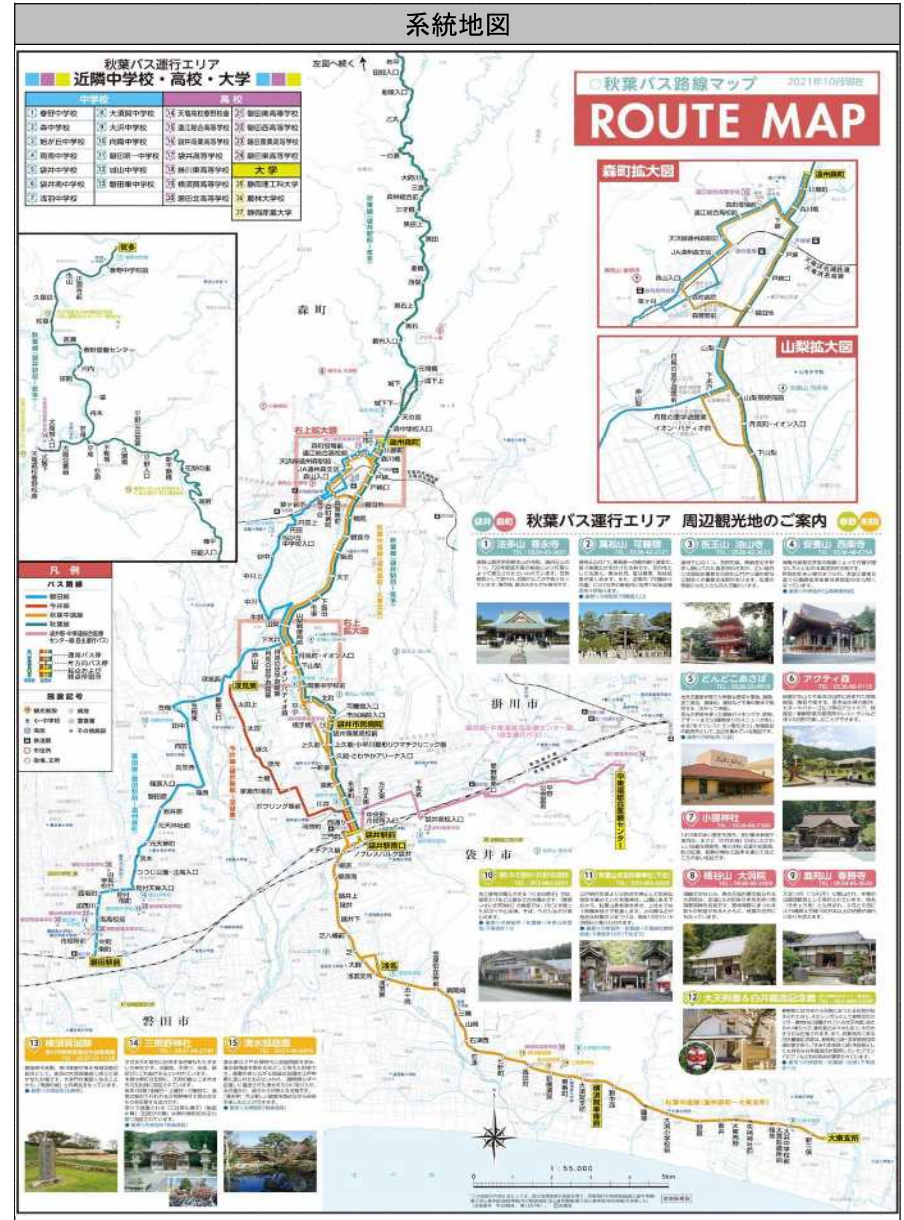
令和5年度運行分系統別利用実態（公表シート） 様式2

系統名	富士宮駅～イオン・星山台～蒲原病院			事業者名	山梨交通
路線の状況	起点	経由地	終点		
	富士宮駅	イオン・星山台	蒲原病院		
系統キロ程 (km)	18.0	輸送量 (人/日)	20.6		
平均乗車密度 (人/便)	2.0	運行回数 (回/日)	10.3		
公共・拠点施設 アクセス状況	学校	富士川第一小・中学校、富士川第二小・中学校			
	病院	蒲原病院、富士宮市立病院			
	商業施設	イオンモール富士宮			
	その他	富士宮駅、富士川駅、富士宮市役所			
収支率 (%) (収益/費用)	30.1		乗車人員 (人)	65,047	
乗換可能な アクセス拠点等	拠点2 バス停2	名称	拠点：富士宮駅、富士川駅 バス停：イオンモール富士宮、北松野（重複区間を除く）		
広域利用状況 (%) (他市町へ跨ぐ利用者の割合)	23.8				
増収策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全国共通ICカードシステム「PASMO」における金額式定期券・高齢者定期券（ゴールド定期）</li> <li>・共通ICが利用出来る周知、販促ポスター等掲出</li> <li>・乗り継ぎ定期券車内受付</li> <li>・バス利用促進啓発表示（バス車内・停留所）時刻表、販促物配布、時刻表配布、インターネットによる「バス総合案内システム」の運用（路線情報・停留所位置情報・時刻表）、富士市内路線バス、コミュニティ交通との「乗り継ぎ割引」「共通回数券設定」「高齢者免許返納共通回数券」等</li> </ul>				
費用削減策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・デジタルタコグラフを導入。日々の省燃費運転（エコドライブ）の現状把握。省燃費運転講習による燃料費およびCO2削減</li> <li>・デジタルタコグラフの活用（燃料費削減・教育）</li> <li>・人件費抑制</li> </ul>				
沿線市町のサポート	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国や県補助後の欠損額を補助</li> <li>・路線案内を窓口で配架</li> <li>・のりもの祭での路線バスの利用促進を行う</li> <li>・市自主運行路線との接続による相乗効果を図る</li> <li>・乗継割引券・市内共通回数券の運用</li> </ul>				



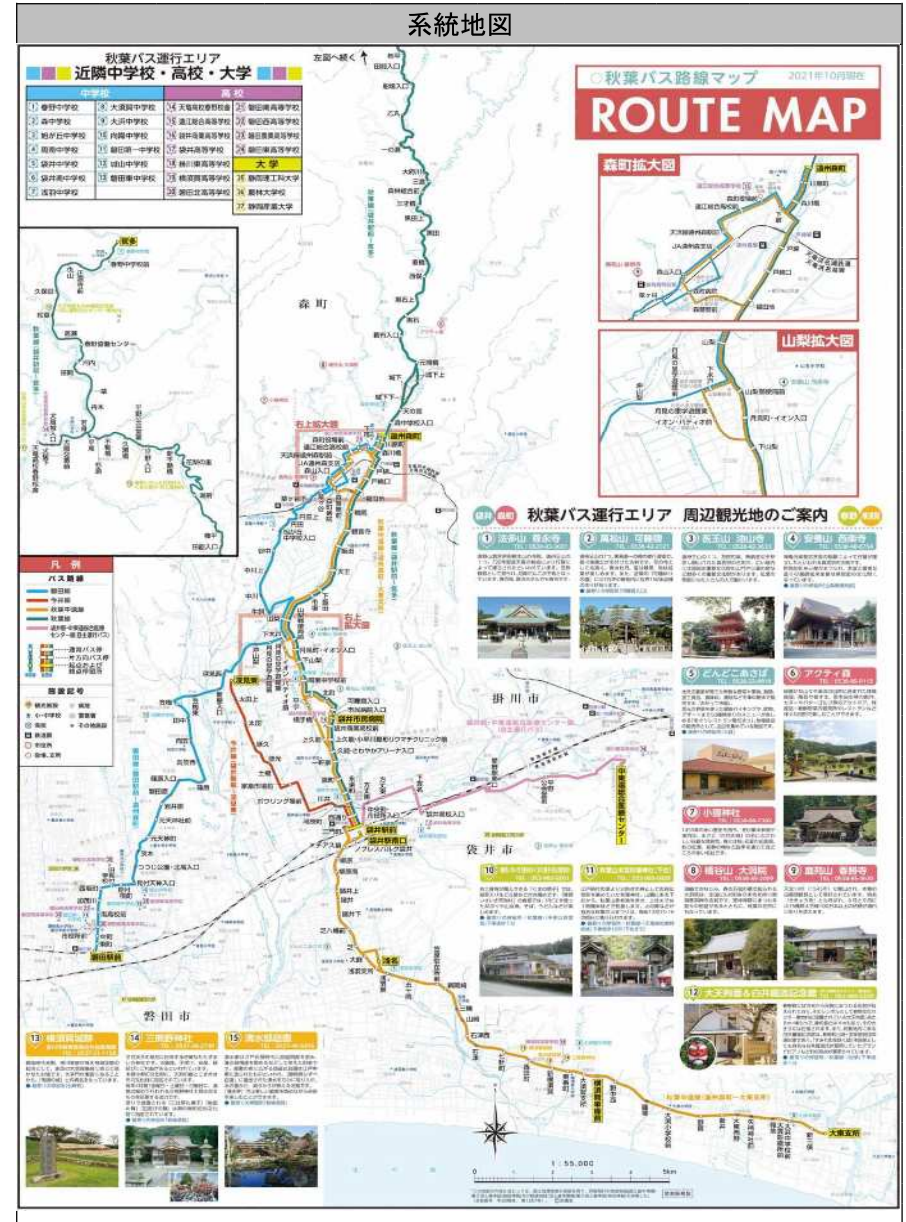
令和5年度運行分系統別利用実態（公表シート） 様式2

系統名	秋葉線			事業者名	秋葉バスサービス
路線の状況	起点	経由地	終点		
	袋井駅前	遠州森町	気多		
系統キロ程 (km)	43.5	輸送量 (人/日)	19.8		
平均乗車密度 (人/便)	3.0	運行回数 (回/日)	6.6		
公共・拠点施設 アクセス状況	学校	春野中学校、気田小学校、天竜高校春野校舎、犬居小学校、森中学校、森小学校、遠江総合高校、飯田小学校、周南中学校、袋井商業高校、袋井北小学校			
	病院	袋井市民病院			
	商業施設	イオン袋井店			
	その他	天竜区春野協働センター、森町役場、袋井市役所、JR袋井駅、天竜浜名湖鉄道戸綿駅			
収支率 (%) (収益/費用)	36.4	乗車人員 (人)	92,751		
乗換可能な アクセス拠点等	拠点2 バス停7	名称	拠点：JR袋井駅、遠州森町ターミナル バス停：森川橋、福田地、山梨、下山梨、北町、可睡口、戸綿		
広域利用状況 (%) (他市町へ行く利用者の割合)	37.4				
増収策	①JRとの接続改善及び見えやすい統一感のある時刻設定（令和元年10月ダイヤ改正） ②上記の周知 ・沿線医療機関、商業施設、学校へ掲示用及び持帰り用時刻表の配付 ・沿線住宅へ最寄バス停及び路線全体時刻表、乗り方案内、路線図をポスティング ・回覧板、広報等によるダイヤ改正告知、乗り方案内、時刻表入手方法の案内を周知 ③年度初め（4月）のバス乗り方、時刻表等の周知 ・上記②と基本同じ対応実施 ④時刻表等の案内（常時） ・HP及びF a x に加えG T F S 対応を開始 ⑤沿線小学校等におけるバスの乗り方教室の開催 ⑥バスロケーションシステムの導入 ⑦スマホ定期券の販売開始				
費用削減策	①キロ当たり経常費用上昇の抑制 ・少人数の管理体制維持による一般管理上昇の抑制 ・設備投資の抑制（車両及び車載機の長期使用等） ・効率的な勤務指定及び昇給額の抑制等による人件費の抑制 ・静鉄グループのスケールメリットを活かした廉価な軽油購入 ②エコドライブ取組強化期間の設定（1～4月） ・暖気運転の抑制、個人目標の設定等				
沿線市町のサポート	・学生に対する通学利用の促進 ・バス利用者向け駐輪場の確保（近隣施設への協力依頼） ・イベントでのバス車両展示とバス乗り方案内 ・小学生バス乗り方教室の実施、新聞社等への情報提供 ・事業者と連携した人材募集（市内での説明会の開催など） ・運行経費の一部負担 ・町広報誌にて利用促進のPR ・役場庁舎にて時刻表配布 ・連休区間を短くするため、バス車両の切り返し場所の確保や整備など、バス事業者と連携実施				



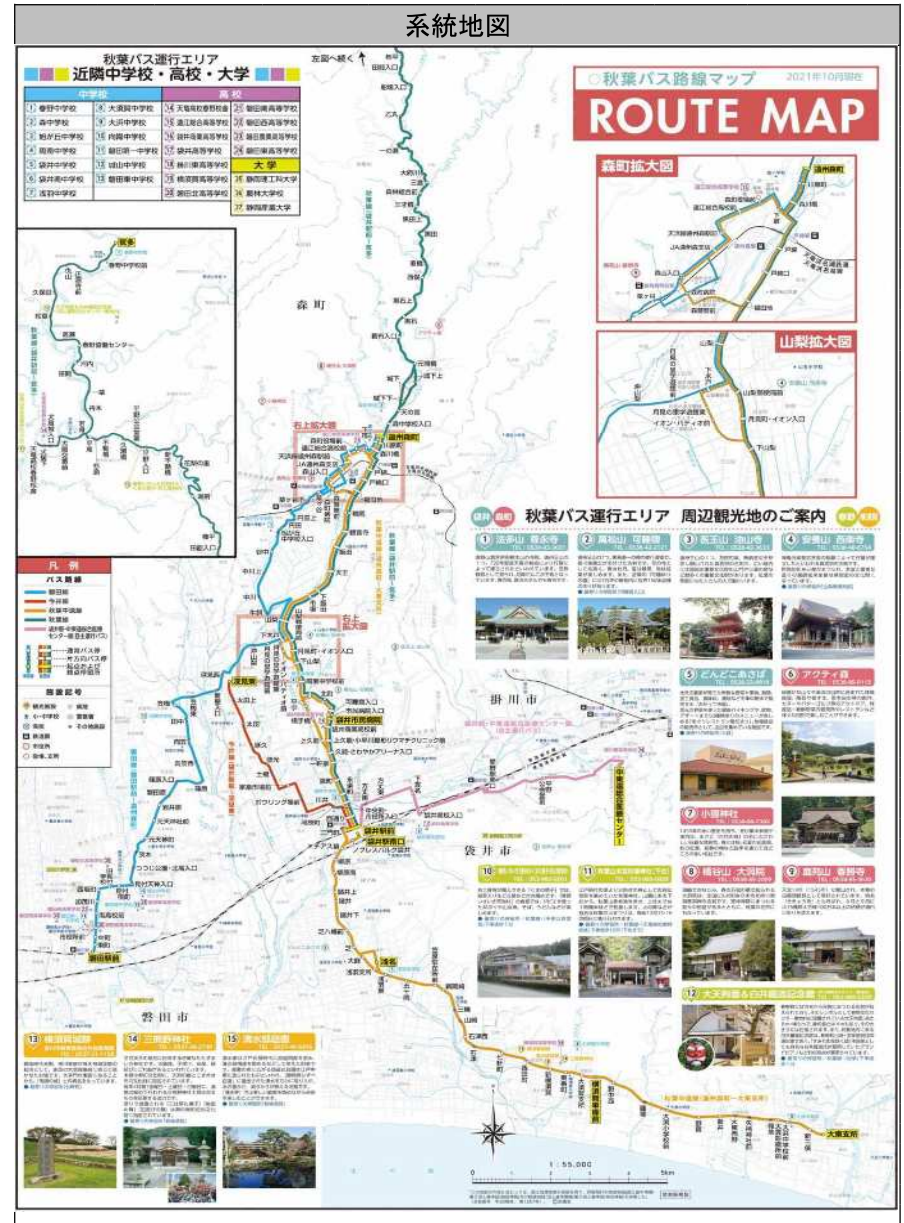
令和5年度運行分系統別利用実態（公表シート） 様式2

系統名	秋葉中遠線			事業者名	秋葉バスサービス
路線の状況	起点	経由地	終点		
	袋井駅前	袋井市民病院	遠州森町		
系統キロ程 (km)	13.0	輸送量 (人/日)	56.7		
平均乗車密度 (人/便)	3.1	運行回数 (回/日)	18.3		
公共・拠点施設 アクセス状況	学校	森小学校、遠江総合高校、飯田小学校、周南中学校、袋井商業高校、袋井北小学校			
	病院	袋井市民病院			
	商業施設	イオン袋井店			
	その他	森町役場、袋井市役所、JR袋井駅、天竜浜名湖鉄道戸綿駅			
収支率 (%) (収益/費用)	54.1	乗車人員 (人)	144,305		
乗換可能な アクセス拠点等	拠点2 バス停7	名称	拠点：JR袋井駅、天竜浜名湖鉄道遠州森町駅 バス停：森川橋、福田地、山梨、下山梨、北町、上久能、戸綿		
広域利用状況 (%) (他市町へ行く利用者の割合)	21.1				
増収策	①JRとの接続改善及び覚えやすい統一感のある時刻設定（令和元年10月ダイヤ改正） ②上記の周知 ・沿線医療機関、商業施設、学校へ掲示用及び持帰り用時刻表の配付 ・沿線住宅へ最寄バス停及び路線全体時刻表、乗り方案内、路線図をポスティング ・回覧板、広報等によるダイヤ改正告知、乗り方案内、時刻表入手方法の案内を周知 ③年度初め（4月）のバス乗り方、時刻表等の周知 ・上記②と基本同じ対応実施 ④時刻表等の案内（常時） ・HP及びF a xに加えG T F S対応を開始 ⑤沿線小学校等におけるバスの乗り方教室の開催 ⑥バスロケーションシステムの導入 ⑦スマホ定期券の販売開始				
費用削減策	①キロ当り経常費用上昇の抑制 ・少人数の管理体制維持による一般管理上昇の抑制 ・設備投資の抑制（車両及び車載機の長期使用等） ・効率的な勤務指定及び昇給額の抑制等による人件費の抑制 ・静鉄グループのスケールメリットを活かした廉価な軽油購入 ②エコドライブ取組強化期間の設定（1～4月） ・暖気運転の抑制、個人目標の設定等				
沿線市町のサポート	・学生に対する通学利用の促進 ・バス利用者向け駐輪場の確保（近隣施設への協力依頼） ・イベントでのバス車両展示とバス乗り方案内 ・小学生バス乗り方教室の実施、新聞社等への情報提供 ・事業者と連携した人材募集（市内での説明会の開催など） ・運行経費の一部負担 ・町広報誌にて利用促進のPR ・役場庁舎にて時刻表配布				



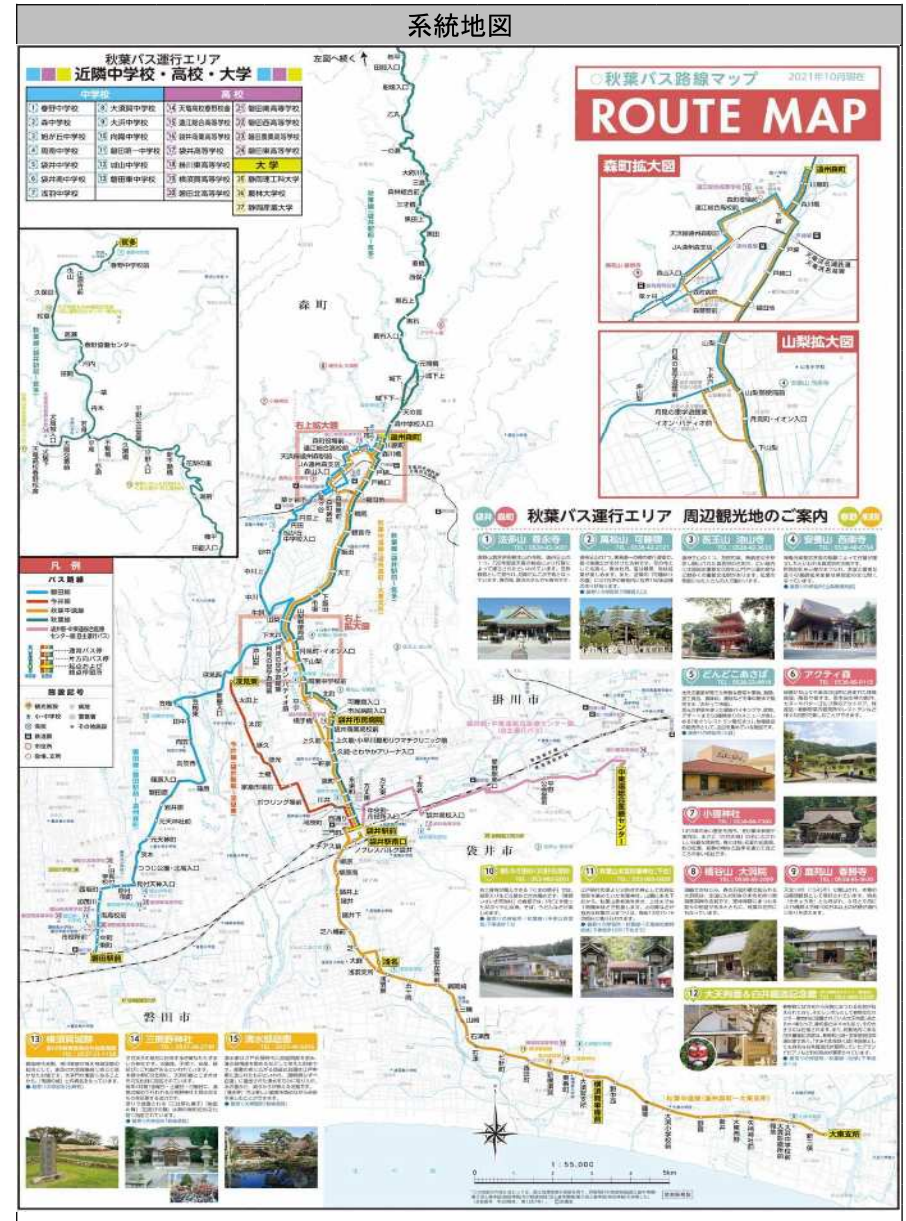
令和5年度運行分系統別利用実態（公表シート） 様式2

系統名	秋葉中遠線			事業者名	秋葉バスサービス
路線の状況	起点	経由地	終点		
	大東支所	新横須賀・新岡崎	袋井駅南口		
系統キロ程 (km)	17.7	輸送量 (人/日)	22.1		
平均乗車密度 (人/便)	2.6	運行回数 (回/日)	8.5		
公共・拠点施設 アクセス状況	学校	浅羽北小学校、浅羽中学校、笠原小学校、横須賀高校、横須賀小学校、大須賀中学校、大淵小学校、大浜中学校			
	病院				
	商業施設				
	その他	袋井市浅羽支所、掛川市大東支所、JR袋井駅			
収支率 (%) (収益/費用)	44.5	乗車人員 (人)	50,604		
乗換可能な アクセス拠点等	拠点1 バス停4	名称	拠点: JR袋井駅 バス停: 芝、浅羽支所、横須賀車庫前、大東支所		
広域利用状況 (%) (他市町へ行く利用者の割合)	44.0				
増収策	①JRとの接続改善及び覚えやすい統一感のある時刻設定（令和元年10月ダイヤ改正） ②上記の周知 ・沿線医療機関、商業施設、学校へ掲示用及び持帰り用時刻表の配付 ・沿線住宅へ最寄バス停及び路線全体時刻表、乗り方案内、路線図をポスティング ・回覧板、広報等によるダイヤ改正告知、乗り方案内、時刻表入手方法の案内を周知 ③年度初め（4月）のバス乗り方、時刻表等の周知 ・上記②と基本同じ対応実施 ④時刻表等の案内（常時） ・HP及びF a xに加えG T F S対応を開始 ⑤沿線小学校等におけるバスの乗り方教室の開催 ⑥バスロケーションシステムの導入 ⑦スマホ定期券の販売開始				
費用削減策	①キロ当たり経常費用上昇の抑制 ・少人数の管理体制維持による一般管理上昇の抑制 ・設備投資の抑制（車両及び車載機の長期使用等） ・効率的な勤務指定及び昇給額の抑制等による人件費の抑制 ・静鉄グループのスケールメリットを活かした廉価な軽油購入 ②エコドライブ取組強化期間の設定（1～4月） ・暖気運転の抑制、個人目標の設定等				
沿線市町のサポート	・学生に対する通学利用の促進 ・バス利用者向け駐輪場の確保（近隣施設への協力依頼） ・イベントでのバス車両展示とバス乗り方案内 ・小学生バス乗り方教室の実施、新聞社等への情報提供 ・事業者と連携した人材募集（市内での説明会の開催など） ・運行経費の一部負担 ・町広報誌にて利用促進のPR ・役場庁舎にて時刻表配布				



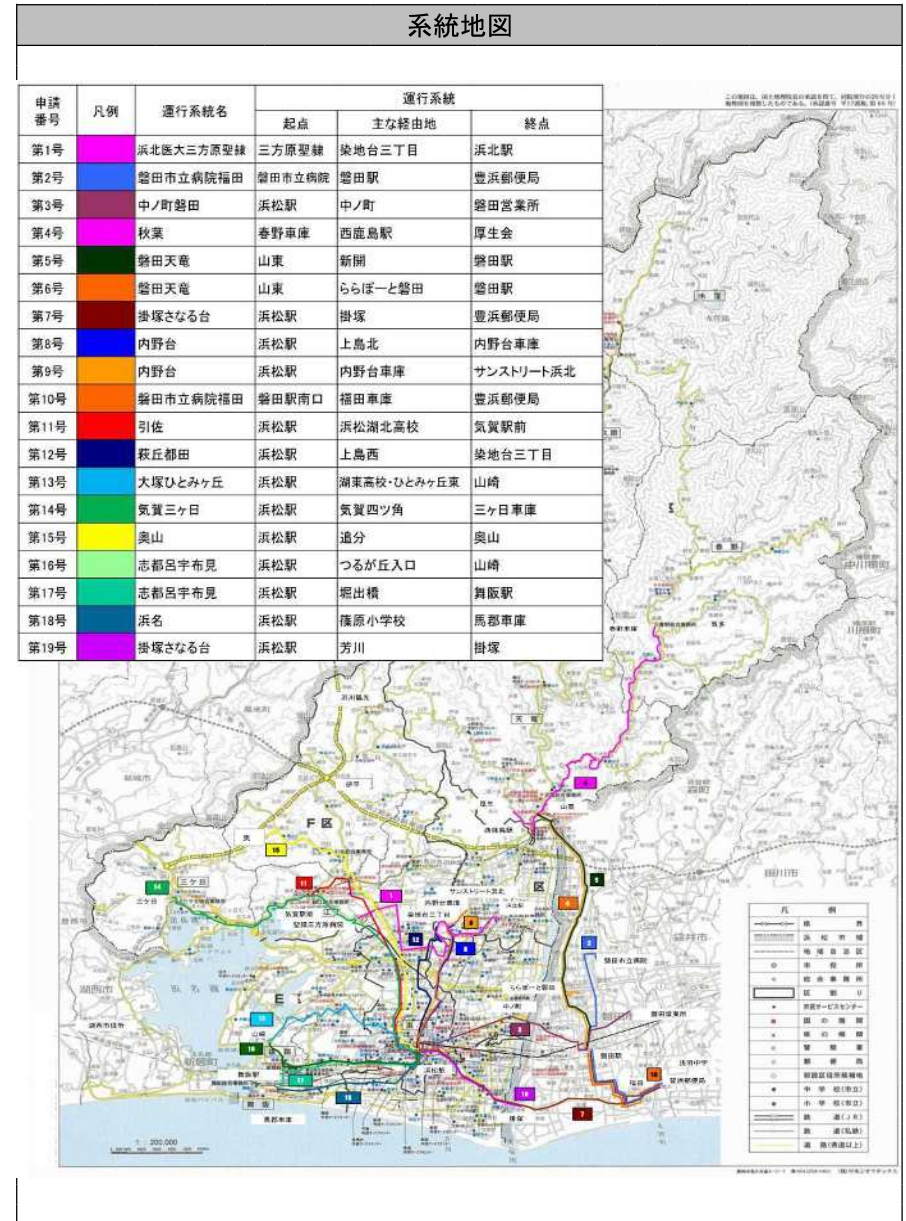
令和5年度運行分系統別利用実態（公表シート） 様式2

系統名	秋葉中遠線			事業者名	秋葉バスサービス
路線の状況	起点	経由地	終点		
	横須賀車庫	新潟崎	袋井駅南口		
系統キロ程 (km)	11.7	輸送量 (人/日)	54.8		
平均乗車密度 (人/便)	2.8	運行回数 (回/日)	19.6		
公共・拠点施設 アクセス状況	学校	浅羽北小学校、浅羽中学校、笠原小学校、横須賀高校、横須賀小学校、大須賀中学校			
	病院				
	商業施設				
	その他	袋井市浅羽支所、JR袋井駅			
収支率 (%) (収益/費用)	53.7		乗車人員 (人)	94,003	
乗換可能な アクセス拠点等	拠点1 バス停3	名称	拠点：JR袋井駅 バス停：芝、浅羽支所、横須賀車庫前		
広域利用状況 (%) (他市町へ行く利用者の割合)	52.5				
増収策	<ul style="list-style-type: none"> <li>①JRとの接続改善及び見えやすい統一感のある時刻設定（令和元年10月ダイヤ改正）</li> <li>②上記の周知 <ul style="list-style-type: none"> <li>沿線医療機関、商業施設、学校へ掲示用及び持帰り用時刻表の配付</li> <li>沿線住宅へ最寄バス停及び路線全体時刻表、乗り方案内、路線図をポスティング</li> <li>回覧板、広報等によるダイヤ改正告知、乗り方案内、時刻表入手方法の案内を周知</li> </ul> </li> <li>③年度初め（4月）のバス乗り方、時刻表等の周知 <ul style="list-style-type: none"> <li>上記②と基本同じ対応実施</li> </ul> </li> <li>④時刻表等の案内（常時） <ul style="list-style-type: none"> <li>HP及びF a xに加えG T F S対応を開始</li> </ul> </li> <li>⑤沿線小学校等におけるバスの乗り方教室の開催</li> <li>⑥バスロケーションシステムの導入</li> <li>⑦スマホ定期券の販売開始</li> </ul>				
費用削減策	<ul style="list-style-type: none"> <li>①キロ当たり経常費用上昇の抑制 <ul style="list-style-type: none"> <li>少人数の管理体制維持による一般管理上昇の抑制</li> <li>設備投資の抑制（車両及び車載機の長期使用等）</li> <li>効率的な勤務指定及び昇給額の抑制等による人件費の抑制</li> <li>静鉄グループのスケールメリットを活かした廉価な軽油購入</li> </ul> </li> <li>②エコドライブ取組強化期間の設定（1～4月） <ul style="list-style-type: none"> <li>暖気運転の抑制、個人目標の設定等</li> </ul> </li> </ul>				
沿線市町のサポート	<ul style="list-style-type: none"> <li>学生に対する通学利用の促進</li> <li>バス利用者向け駐輪場の確保（近隣施設への協力依頼）</li> <li>イベントでのバス車両展示とバス乗り方案内</li> <li>小学生バス乗り方教室の実施、新聞社等への情報提供</li> <li>事業者と連携した人材募集（市内での説明会の開催など）</li> <li>運行経費の一部負担</li> <li>町広報誌にて利用促進のPR</li> <li>役場庁舎にて時刻表配布</li> </ul>				



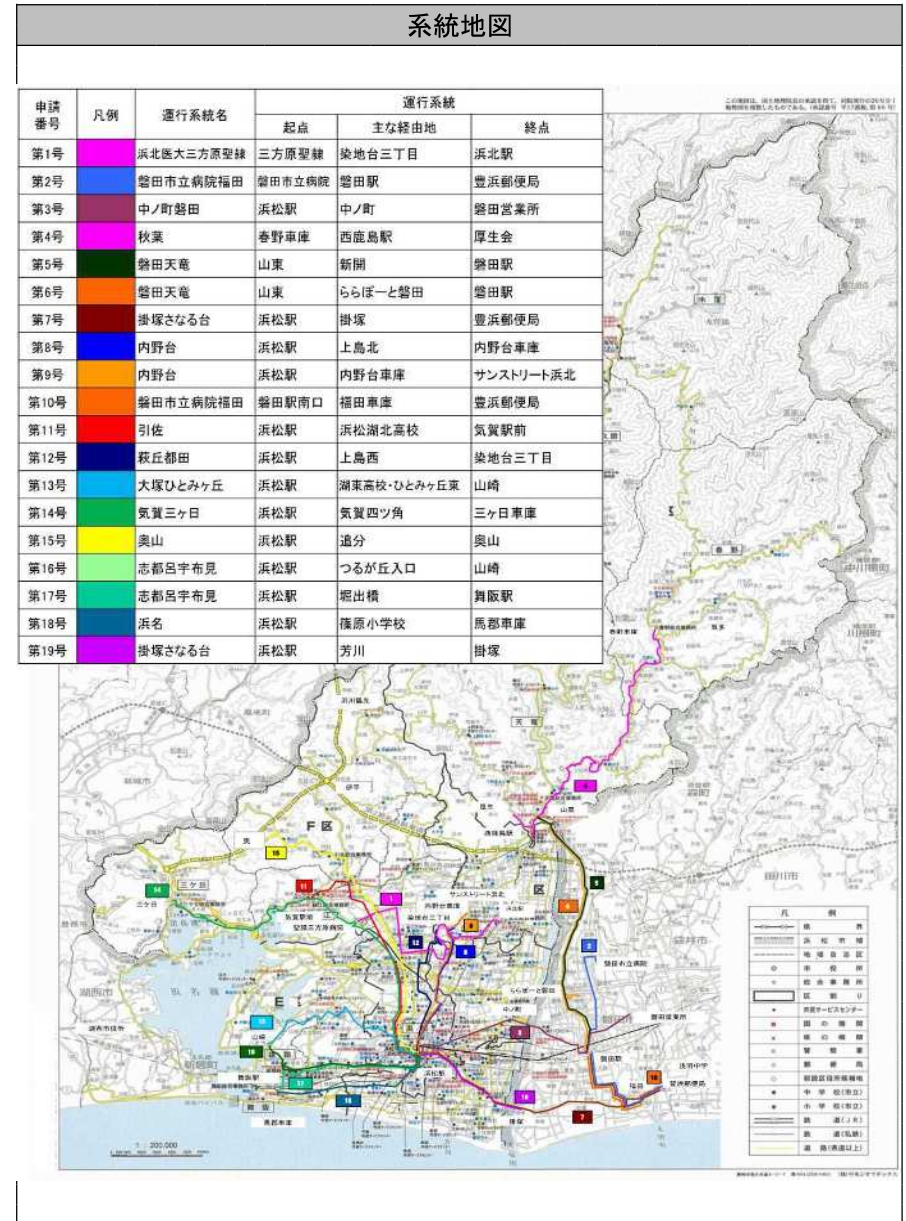
令和5年度運行分系統別利用実態（公表シート） 様式2

系統名	浜北医大三方原聖隷線			事業者名	遠州鉄道
路線の状況	起点	経由地	終点		
	三方原聖隷	染地台三丁目	浜北駅		
系統キロ程 (km)	17.8		輸送量 (人/日)	25.0	
平均乗車密度 (人/便)	3.8		運行回数 (回/日)	6.6	
公共・拠点施設 アクセス状況	学校	聖隷クリストファー高校、聖隷クリストファー大学、浜松工業高校、浜松日体高校、浜松医科大学			
	病院	聖隷三方原病院			
	商業施設				
	その他	浜松市浜北区役所、遠鉄浜北駅、小松駅			
収支率 (%) (収益/費用)	41.7		乗車人員 (人)	62,370	
乗換可能な アクセス拠点等	拠点2 バス停13	名称	拠点：遠鉄小松駅、なゆた浜北バス停；聖隷三方原病院、根洗、都田口西、都田口、曳馬野、浜工高前、三方原営業所、半田、環状線入口、染地台3丁目、内野台一丁目、内野台三丁目、浜北区役所		
広域利用状況 (%) (他市町へ行く利用者の割合)	47.7				
増収策	<p>①旅客動向の分析を行い、令和4年10月と令和5年4月にダイヤ改正を実施。                  ②ICカード乗車券のオートチャージ（自動積み増し）の利用を促進。                  ③高齢の免許返納者向けに、格安の全線定期券の販売を実施。                  ④定期券の継続購入に対して、WEBで申し込みを受け付け、営業窓口へ設置した券機にて定期券を発行するサービスを展開。                  ⑤定期券の新規購入に対して、WEBで申し込みを受け付け、営業窓口での受け渡しのほか配送で自宅や最寄りコンビニエンスストアへ届けるサービスを展開。                  ⑥大手私鉄が提供するスマートフォン用MaaSアプリにおいて、デジタルフリー乗車券を販売。</p>				
費用削減策	<p>①デジタルタコグラフから得られたデータを、半自動的に加工するソフトを活用して分析を行い、その結果を使って運転方法の指導を実施。燃料費の削減や有責事故の撲滅に努めた。                  ②営業所再編や営業日変更を実施して、人件費抑制に努めた。                  (R2年10月) 雄踏営業所と館山寺営業所を統合し浜松西営業所として再編/天竜営業所を浜松東営業所の管轄車庫として再編。天竜営業所管轄の春野車庫を廃止。                  (R3年2月) ターミナル営業所を廃止し、ターミナル営業所管轄の松江町車庫を浜松東営業所の管轄車庫として再編。                  (R3年4月) 浜松南営業所を磐田営業所の管轄車庫として再編。                  (R3年5月) 浜松駅バスターミナル窓口を毎日営業から水曜日定休に運用変更                  (R4年12月) 磐田整備センターの窓口業務終了                  (R5年1月) 整備センターの窓口営業時間の短縮 9:00~17:50 → 9:30~17:00                  ③乗務員交番作成をAIを使用し自動化することで、間接人件費の抑制と効率的な運用を実現した。</p>				
沿線市町のサポート	<ul style="list-style-type: none"> <li>障がいのある人にバス券等を交付 (7,000円/年)</li> <li>地域MM：地域交通検討会、老人クラブ等の会で啓発</li> <li>企業MM：エコ通勤、C&amp;R等の取り組みの協力</li> <li>職員MM：エコ通勤の日設定 (毎月20日)、庁内放送</li> <li>学校MM：事業者主催のバス教室開催、乗り方DVDの配布</li> <li>来庁者MM：カウンター用椅子を利用した広告掲載、エコ通勤の呼びかけ</li> <li>幹線路線への乗り継ぎを考慮した地域バス運行ダイヤ編成</li> <li>イベント時に公共交通を利用してもらうよう利用促進チラシの配布</li> </ul>				



令和5年度運行分系統別利用実態（公表シート） 様式2

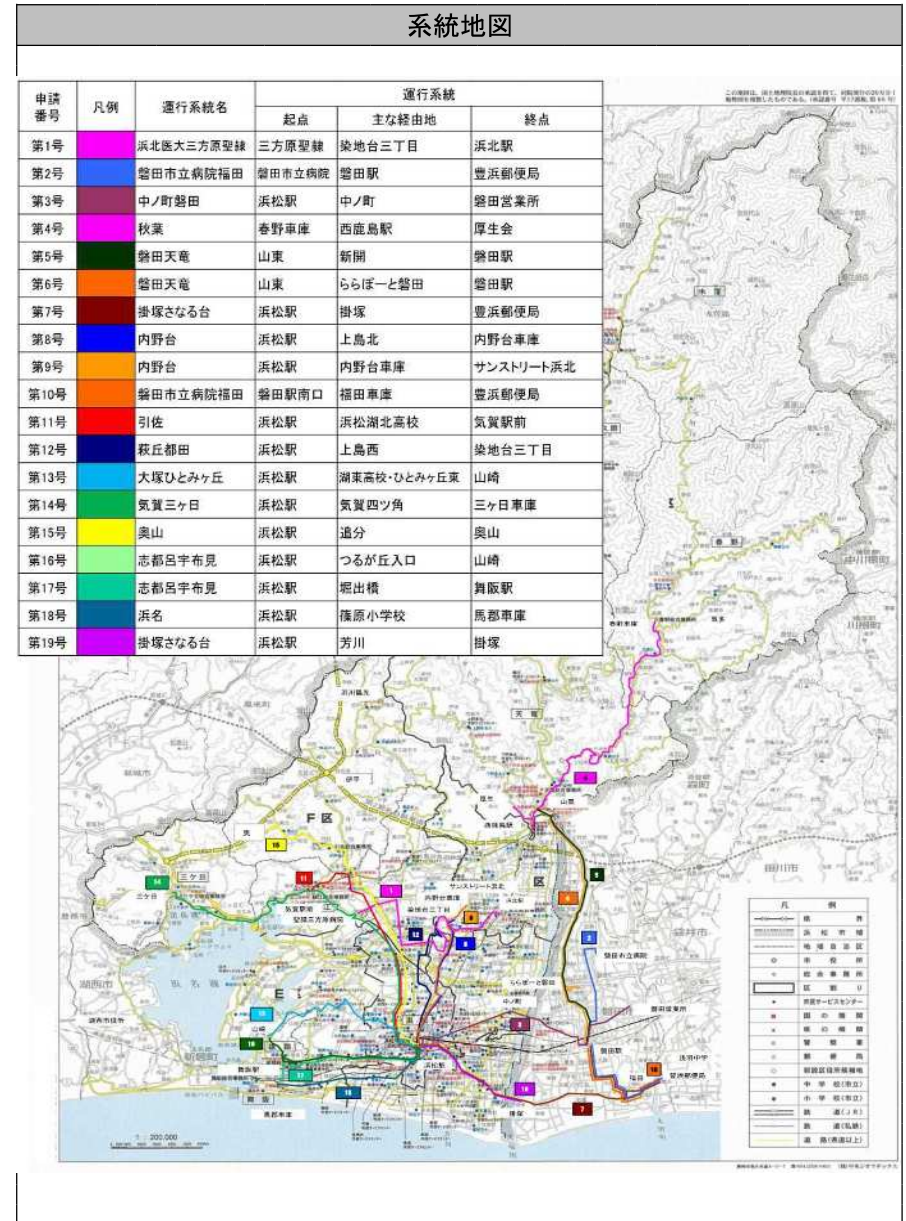
系統名	磐田市立病院福田線			事業者名	遠州鉄道
路線の状況	起点	経由地	終点		
	磐田市立病院	磐田駅	豊浜郵便局		
系統キロ程 (km)	19.6	輸送量 (人/日)	27.2		
平均乗車密度 (人/便)	4.7	運行回数 (回/日)	5.8		
公共・拠点施設 アクセス状況	学校	磐田南高校、磐田北小学校			
	病院	新都市病院、磐田市立病院			
	商業施設				
	その他	磐田市役所、磐田市福田支所、JR磐田駅			
収支率 (%) (収益/費用)	57.0		乗車人員 (人)	96,148	
乗換可能な アクセス拠点等	拠点1 バス停5	名称	拠点：JR磐田駅 バス停：西坂町・加茂川・新道・前嶋・福田車庫		
広域利用状況 (%) (他市町へ行く利用者の割合)	29.5				
増収策	<p>①旅客動向の分析を行い、令和4年10月と令和5年4月にダイヤ改正を実施。                  ②ICカード乗車券のオートチャージ（自動積み増し）の利用を促進。                  ③高齢の免許返納者向けに、格安の全線定期券の販売を実施。                  ④定期券の継続購入に対して、WEBで申し込みを受け付け、営業窓口へ設置した券機にて定期券を発行するサービスを展開。                  ⑤定期券の新規購入に対して、WEBで申し込みを受け付け、営業窓口での受け渡しのほか配送で自宅や最寄りコンビニエンスストアへ届けるサービスを展開。                  ⑥大手私鉄が提供するスマートフォン用MaaSアプリにおいて、デジタルフリー乗車券を販売。</p>				
費用削減策	<p>①デジタルタコグラフから得られたデータを、半自動的に加工するソフトを活用して分析を行い、その結果を使って運転方法の指導を実施。燃料費の削減や有責事故の撲滅に努めた。                  ②営業所再編や営業日変更を実施して、人件費抑制に努めた。                  (R2年10月) 雄踏営業所と館山寺営業所を統合し浜松西営業所として再編/天竜営業所を浜松東営業所の管轄車庫として再編。天竜営業所管轄の春野車庫を廃止。                  (R3年2月) ターミナル営業所を廃止し、ターミナル営業所管轄の松江町車庫を浜松東営業所の管轄車庫として再編。                  (R3年4月) 浜松南営業所を磐田営業所の管轄車庫として再編。                  (R3年5月) 浜松駅バスターミナル窓口を毎日営業から水曜日定休に運用変更                  (R4年12月) 磐田整備センターの窓口業務終了                  (R5年1月) 整備センターの窓口営業時間の短縮 9:00~17:50 → 9:30~17:00                  ③乗務員交番作成をAIを使用し自動化することで、間接人件費の抑制と効率的な運用を実現した。</p>				
沿線市町のサポート	<ul style="list-style-type: none"> <li>運行経費の一部負担</li> <li>市ホームページから運行事業者のホームページへのリンクを設定</li> <li>バス路線図の配置</li> <li>エコ通勤の日を設定し、職員に対しバスをはじめとした公共交通機関の利用を促進</li> </ul>				





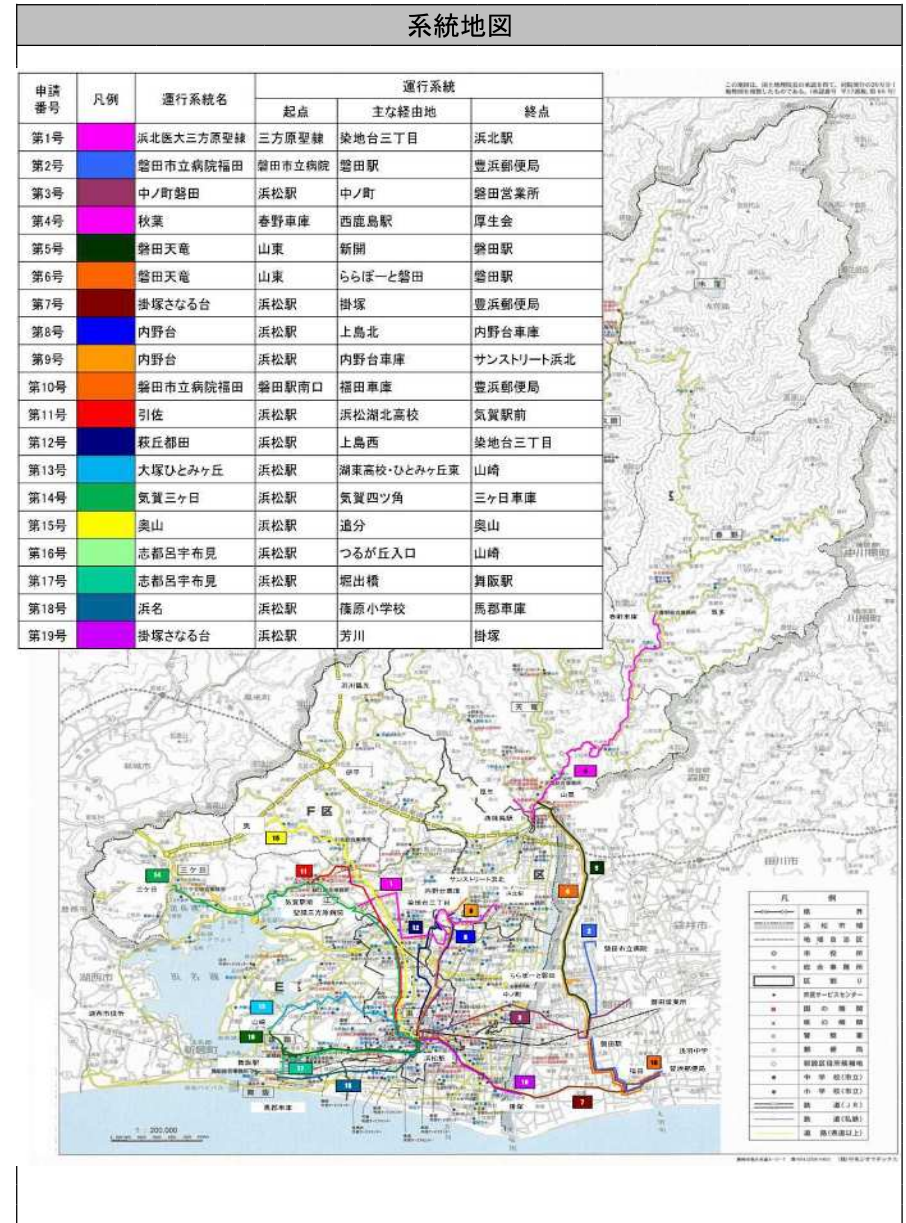
令和5年度運行分系統別利用実態（公表シート） 様式2

系統名	中ノ町磐田線			事業者名	遠州鉄道
路線の状況	起点	経由地	終点		
	浜松駅	中ノ町	磐田営業所		
系統キロ程 (km)	17.5	輸送量 (人/日)	85.5		
平均乗車密度 (人/便)	6.2	運行回数 (回/日)	13.8		
公共・拠点施設 アクセス状況	学校	西遠学園、磐田西高校、磐田南高校、中ノ町小学校、磐田西小学校			
	病院				
	商業施設				
	その他	磐田市役所、JR浜松駅、JR磐田駅			
収支率 (%) (収益/費用)	67.8	乗車人員 (人)	290,160		
乗換可能な アクセス拠点等	拠点2 バス停5	名称	拠点：JR浜松駅ターミナル、磐田駅 バス停：広小路、子安、磐田石原、加茂川、磐田営業所		
広域利用状況 (%) (他市町へ行く利用者の割合)	11.9				
増収策	<p>①旅客動向の分析を行い、令和4年10月と令和5年4月にダイヤ改正を実施。                  ②ICカード乗車券のオートチャージ（自動積み増し）の利用を促進。                  ③高齢の免許返納者向けに、格安の全線定期券の販売を実施。                  ④定期券の継続購入に対して、WEBで申し込みを受け付け、営業窓口へ設置した券機にて定期券を発行するサービスを展開。                  ⑤定期券の新規購入に対して、WEBで申し込みを受け付け、営業窓口での受け渡しのほか配達でご自宅や最寄りコンビニエンスストアへ届けるサービスを展開。                  ⑥大手私鉄が提供するスマートフォン用MaaSアプリにおいて、デジタルフリー乗車券を販売。</p>				
費用削減策	<p>①デジタルタコグラフから得られたデータを、半自動的に加工するソフトを活用して分析を行い、その結果を使って運転方法の指導を実施。燃料費の削減や有責事故の撲滅に努めた。                  ②営業所再編や営業日変更を実施して、人件費抑制に努めた。                  (R2年10月) 雄踏営業所と館山寺営業所を統合し浜松西営業所として再編/天竜営業所を浜松東営業所の管轄車庫として再編。天竜営業所管轄の春野車庫を廃止。                  (R3年2月) ターミナル営業所を廃止し、ターミナル営業所管轄の松江町車庫を浜松東営業所の管轄車庫として再編。                  (R3年4月) 浜松南営業所を磐田営業所の管轄車庫として再編。                  (R3年5月) 浜松駅ターミナル窓口を毎日営業から水曜日定休に運用変更                  (R4年12月) 磐田整備センターの窓口業務終了                  (R5年1月) 整備センターの窓口営業時間の短縮 9:00~17:50 → 9:30~17:00                  ③乗務員交番作成をAIを使用し自動化することで、間接人件費の抑制と効率的な運用を実現した。</p>				
沿線市町のサポート	<ul style="list-style-type: none"> <li>障がいのある人にバス券等を交付 (7,000円/年)</li> <li>地域MM：地域交検検討会、老人クラブ等の会合で啓発</li> <li>企業MM：エコ通勤、C&amp;R等の取り組みの協力</li> <li>職員MM：エコ通勤の日設定 (毎月20日)、庁内放送</li> <li>学校MM：事業者主催のバス教室開催、乗り方DVDの配布</li> <li>来庁者MM：カウンター用椅子を利用した広告掲載、エコ通勤の呼びかけ</li> <li>幹線路線への乗り継ぎを考慮した地域バス運行ダイヤ編成</li> <li>イベント時に公共交通を利用してもらうよう利用促進チラシの配布</li> <li>運行経費の一部負担</li> <li>市ホームページから運行事業者のホームページへのリンクを設定</li> <li>バス路線図の配属</li> <li>エコ通勤の日を設定し、職員に対しバスをはじめとした公共交通機関の利用を促進</li> </ul>				



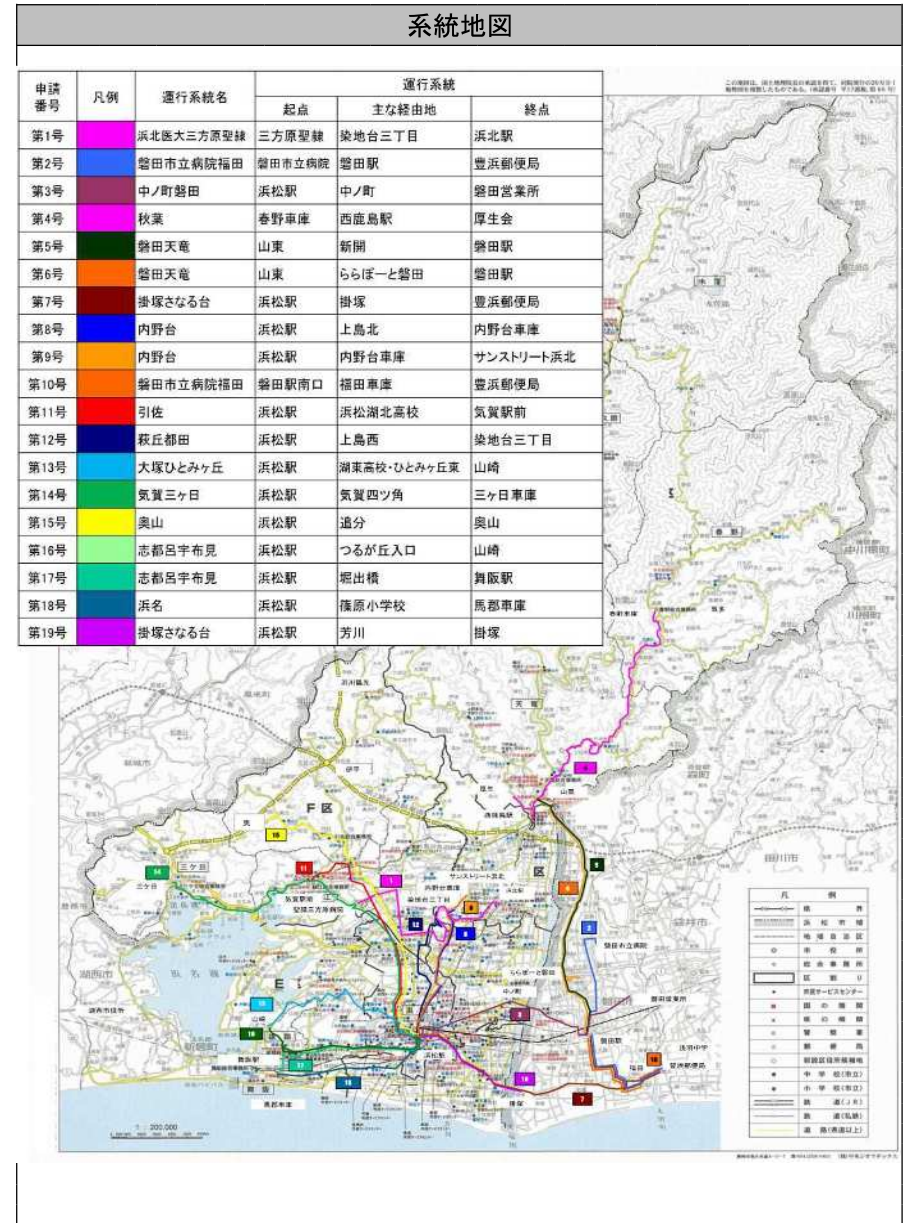
令和5年度運行分系統別利用実態（公表シート） 様式2

系統名	秋葉線			事業者名	遠州鉄道
路線の状況	起点	経由地	終点		
	春野車庫	西鹿島駅	厚生会		
系統キロ程 (km)	26.9		輸送量 (人/日)	21.7	
平均乗車密度 (人/便)	3.3		運行回数 (回/日)	6.6	
公共・拠点施設 アクセス状況	学校	天竜高校、天竜高校春野校舎、清竜中学校、光が丘中学校			
	病院	天竜病院、厚生会			
	商業施設				
	その他	浜松市天竜区役所、遠鉄西鹿島駅			
収支率 (%) (収益/費用)	34.0		乗車人員 (人)	70,860	
乗換可能な アクセス拠点等	拠点1 バス停5	名称	拠点：遠鉄西鹿島駅 バス停：下すがり入口、山東、二俣横町、秋野不矩美術館入口、鹿島橋		
広域利用状況 (%) (他市町へ行く利用者の割合)	28.0				
増収策	<p>①旅客動向の分析を行い、令和4年10月と令和5年4月にダイヤ改正を実施。                  ②ICカード乗車券のオートチャージ（自動積み増し）の利用を促進。                  ③高齢の免許返納者向けに、格安の全線定期券の販売を実施。                  ④定期券の継続購入に対して、WEBで申し込みを受け付け、営業窓口へ設置した発券機にて定期券を発行するサービスを展開。                  ⑤定期券の新規購入に対して、WEBで申し込みを受け付け、営業窓口での受け渡しのほか配送で自宅や最寄りコンビニエンスストアへ届けるサービスを展開。                  ⑥大手私鉄が提供するスマートフォン用MaaSアプリにおいて、デジタルフリー乗車券を販売。</p>				
費用削減策	<p>①デジタルタコグラフから得られたデータを、半自動的に加工するソフトを活用して分析を行い、その結果を使って運転方法の指導を実施。燃料費の削減や有責事故の撲滅に努めた。                  ②営業所再編や営業日変更を実施して、人件費抑制に努めた。                  (R2年10月) 雄踏営業所と館山営業所を統合し浜松西営業所として再編/天竜営業所を浜松東営業所の管轄車庫として再編。天竜営業所管轄の春野車庫を廃止。                  (R3年2月) ターミナル営業所を廃止し、ターミナル営業所管轄の松江町車庫を浜松東営業所の管轄車庫として再編。                  (R3年4月) 浜松南営業所を磐田営業所の管轄車庫として再編。                  (R3年5月) 浜松駅バスターミナル窓口を毎日営業から水曜日定休に運用変更                  (R4年12月) 磐田整備センターの窓口業務終了                  (R5年1月) 整備センターの窓口営業時間の短縮 9:00~17:50 → 9:30~17:00                  ③乗務員交番作成をAIを使用し自動化することで、間接人件費の抑制と効率的な運用を実現した。</p>				
沿線市町のサポート	<ul style="list-style-type: none"> <li>障がいのある人にバス券等を交付 (7,000円/年)</li> <li>地域MM：地域交通検討会、老人クラブ等の会合で啓発</li> <li>企業MM：エコ通勤、C&amp;R等の取り組みの協力</li> <li>職員MM：エコ通勤の日設定 (毎月20日)、庁内放送</li> <li>学校MM：事業者主催のバス教室開催、乗り方DVDの配布</li> <li>来庁者MM：カウンター用椅子を利用した広告掲載、エコ通勤の呼びかけ</li> <li>幹線路線への乗り継ぎを考慮した地域バス運行ダイヤ編成</li> <li>イベント時に公共交通を利用してもらうよう利用促進チラシの配布</li> </ul>				



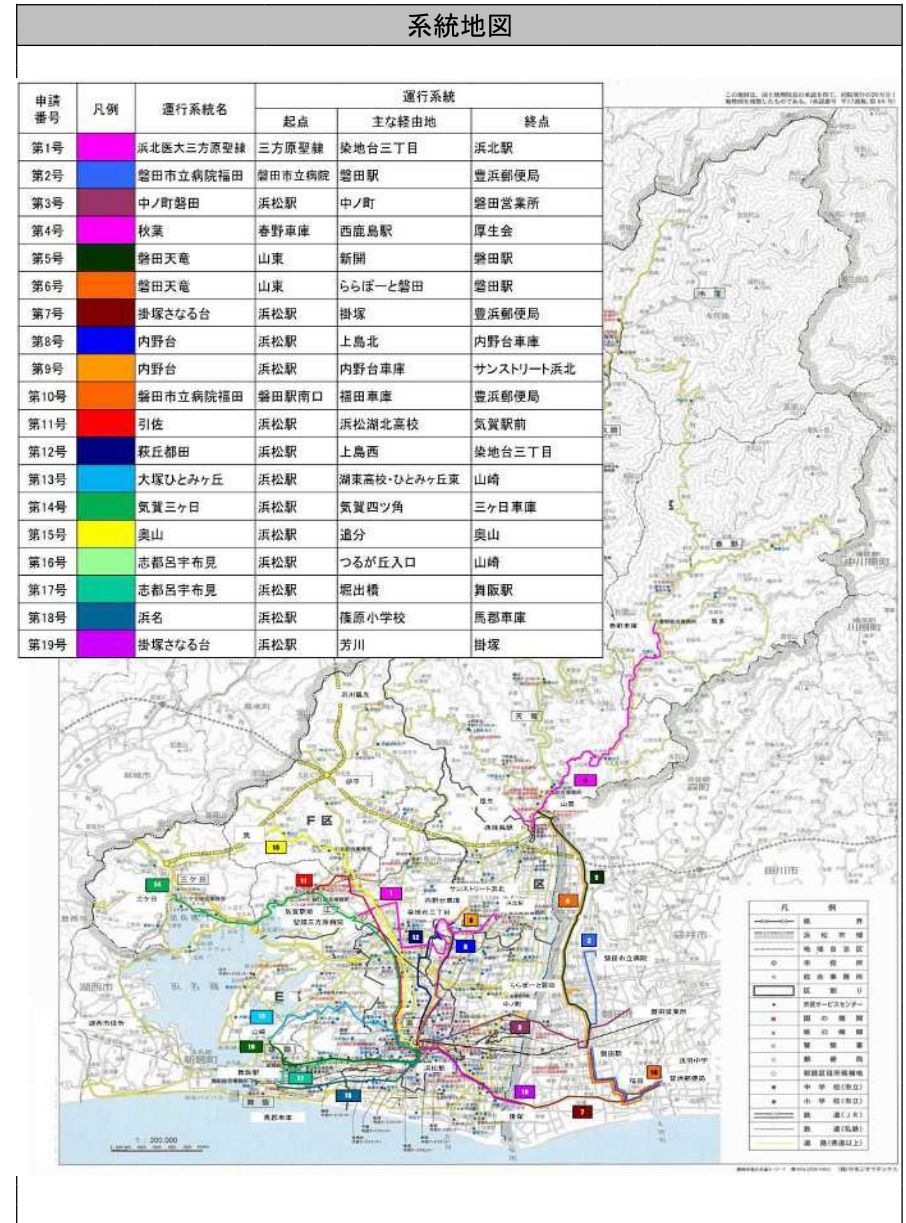
令和5年度運行分系統別利用実態（公表シート） 様式2

系統名	磐田天竜線			事業者名	遠州鉄道
路線の状況	起点	経由地	終点		
	山東	新開	磐田駅		
系統キロ程 (km)	21.7	輸送量 (人/日)	28.4		
平均乗車密度 (人/便)	5.8	運行回数 (回/日)	4.9		
公共・拠点施設 アクセス状況	学校	天竜高校、磐田農業高校、磐田南高校、磐田西小学校			
	病院				
	商業施設				
	その他	県中遠総合庁舎、磐田市役所、浜松市天竜区役所、JR磐田駅、遠鉄西鹿島駅、天竜浜名湖鉄道豊岡、二俣駅			
収支率 (%) (収益/費用)	63.7	乗車人員 (人)	72,244		
乗換可能な アクセス拠点等	拠点2 バス停4	名称	拠点：JR磐田駅、天竜浜名湖鉄道二俣駅 バス停：山東、秋野不矩美術館入口、西坂町、加茂川		
広域利用状況 (%) (他市町へ行く利用者の割合)	73.4				
増収策	<p>①旅客動向の分析を行い、令和4年10月と令和5年4月にダイヤ改正を実施。                  ②ICカード乗車券のオートチャージ（自動積み増し）の利用を促進。                  ③高齢の免許返納者向けに、格安の全線定期券の販売を実施。                  ④定期券の継続購入に対して、WEBで申し込みを受け付け、営業窓口へ設置した券機にて定期券を発行するサービスを展開。                  ⑤定期券の新規購入に対して、WEBで申し込みを受け付け、営業窓口での受け渡しのほか配達でご自宅や最寄りコンビニエンスストアへ届けるサービスを展開。                  ⑥大手私鉄が提供するスマートフォン用MaaSアプリにおいて、デジタルフリー乗車券を販売。</p>				
費用削減策	<p>①デジタルタコグラフから得られたデータを、半自動的に加工するソフトを活用して分析を行い、その結果を使って運転方法の指導を実施。燃料費の削減や有責事故の撲滅に努めた。                  ②営業所再編や営業日変更を実施して、人件費抑制に努めた。                  (R2年10月) 雄踏営業所と館山寺営業所を統合し浜松西営業所として再編/天竜営業所を浜松東営業所の管轄車庫として再編。天竜営業所管轄の春野車庫を廃止。                  (R3年2月) ターミナル営業所を廃止し、ターミナル営業所管轄の松江町車庫を浜松東営業所の管轄車庫として再編。                  (R3年4月) 浜松南営業所を磐田営業所の管轄車庫として再編。                  (R3年5月) 浜松駅バスターミナル窓口を毎日営業から水曜日定休に運用変更                  (R4年12月) 磐田整備センターの窓口業務終了                  (R5年1月) 整備センターの窓口営業時間の短縮 9:00~17:50 → 9:30~17:00                  ③乗務員交替作成をAIを使用し自動化することで、間接人件費の抑制と効率的な運用を実現した。</p>				
沿線市町のサポート	<ul style="list-style-type: none"> <li>障がいのある人にバス券等を交付（7,000円/年）</li> <li>地域MM：地域交通検討会、老人クラブ等の会合で啓発</li> <li>企業MM：エコ活動、C&amp;R等の取り組みの協力</li> <li>職員MM：エコ活動の日設定（毎月20日）、庁内放送</li> <li>学校MM：事業者主催のバス教室開催、乗り方DVDの配布</li> <li>来庁者MM：カウンター用椅子を利用した広告掲載、エコ活動の呼びかけ</li> <li>幹線路線への乗り継ぎを考慮した地域バス運行ダイヤ編成</li> <li>イベント時に公共交通を利用してもらうよう利用促進チラシの配布</li> <li>運行経費の一部負担</li> <li>市ホームページから運行事業者のホームページへのリンクを設定</li> <li>バス路線図の配属</li> <li>エコ活動の日を設定し、職員に対しバスをはじめとした公共交通機関の利用を促進</li> </ul>				



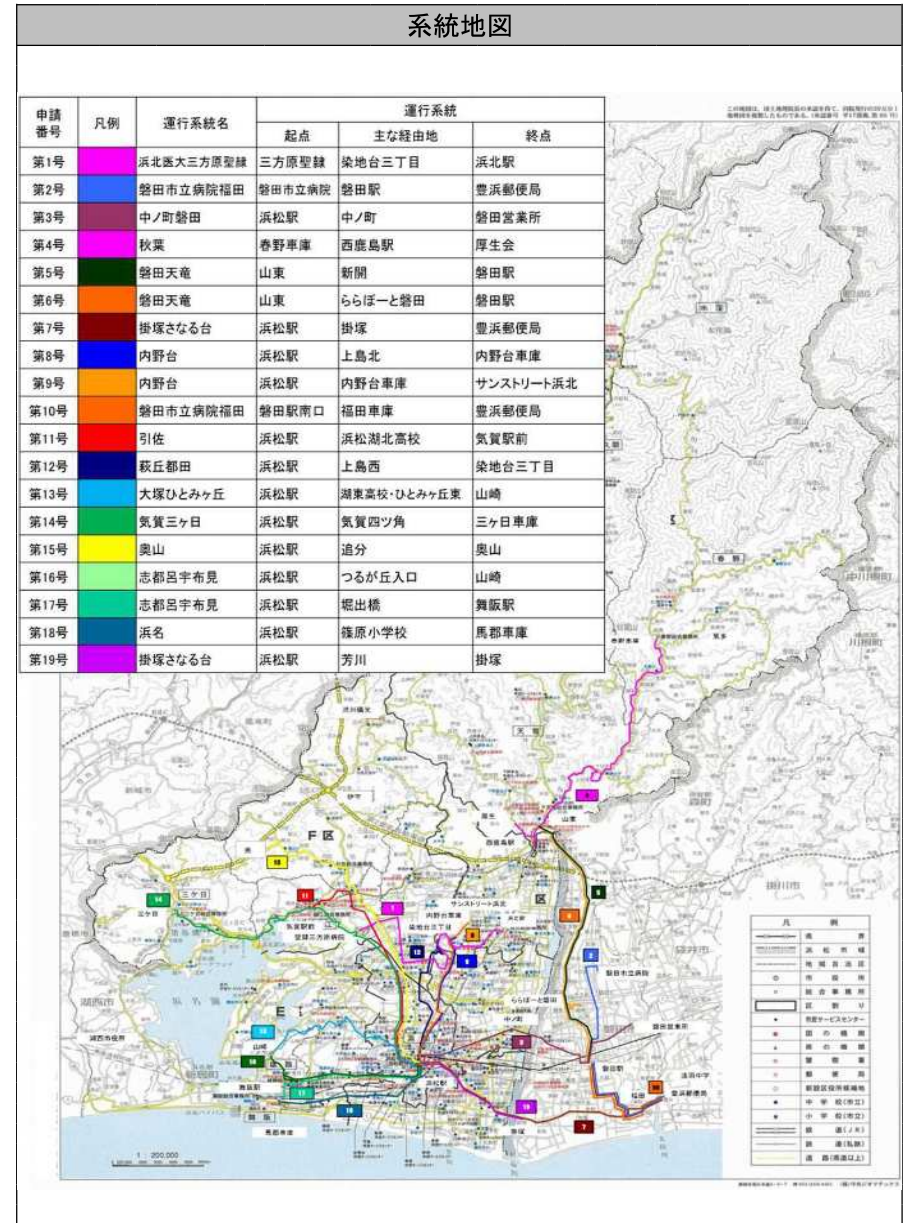
令和5年度運行分系統別利用実態（公表シート） 様式2

系統名	磐田天竜線			事業者名	遠州鉄道
路線の状況	起点	経由地	終点		
	山東	ららぼと磐田	磐田駅		
系統キロ程 (km)	24.7	輸送量 (人/日)	61.4		
平均乗車密度 (人/便)	4.3	運行回数 (回/日)	14.3		
公共・拠点施設 アクセス状況	学校	天竜高校、磐田農業高校、磐田南高校、磐田西小学校			
	病院				
	商業施設	ららぼと磐田			
	その他	県中遠総合庁舎、磐田市役所、浜松市天竜区役所、JR磐田駅、遠鉄西鹿島駅、天竜浜名湖鉄道豊岡、二俣駅			
収支率 (%) (収益/費用)	47.3		乗車人員 (人)	209,236	
乗換可能な アクセス拠点等	拠点2 バス停4	名称	拠点：JR磐田駅、天竜浜名湖鉄道二俣駅 バス停：山東、秋野不矩美術館入口、西坂町、加茂川		
広域利用状況 (%) (他市町へ行く利用者の割合)	34.6				
増収策	<p>①旅客動向の分析を行い、令和4年10月と令和5年4月にダイヤ改正を実施。                  ②ICカード乗車券のオートチャージ（自動積み増し）の利用を促進。                  ③高齢の免許返納者向けに、格安の全線定期券の販売を実施。                  ④定期券の継続購入に対して、WEBで申し込みを受け付け、営業窓口へ設置した発券機にて定期券を発行するサービスを展開。                  ⑤定期券の新規購入に対して、WEBで申し込みを受け付け、営業窓口での受け渡しのほか配送で自宅や最寄りコンビニエンスストアへ届けるサービスを展開。                  ⑥大手私鉄が提供するスマートフォン用MaaSアプリにおいて、デジタルフリー乗車券を販売。</p>				
費用削減策	<p>①デジタルタコグラフから得られたデータを、半自動的に加工するソフトを活用して分析を行い、その結果を使って運転方法の指導を実施。燃料費の削減や有責事故の撲滅に努めた。                  ②営業所再編や営業日変更を実施して、人件費抑制に努めた。                  (R2年10月) 雄踏営業所と館山寺営業所を統合し浜松西営業所として再編/天竜営業所を浜松東営業所の管轄車庫として再編。天竜営業所管轄の春野車庫を廃止。                  (R3年2月) ターミナル営業所を廃止し、ターミナル営業所管轄の松江町車庫を浜松東営業所の管轄車庫として再編。                  (R3年4月) 浜松南営業所を磐田営業所の管轄車庫として再編。                  (R3年5月) 浜松駅バスターミナル窓口を毎日営業から水曜日定休に運用変更                  (R4年12月) 磐田整備センターの窓口業務終了                  (R5年1月) 整備センターの窓口営業時間の短縮 9:00~17:50 → 9:30~17:00                  ③乗務員文書作成をAIを使用し自動化することで、間接人件費の抑制と効率的な運用を実現した。</p>				
沿線市町のサポート	<ul style="list-style-type: none"> <li>障がいのある人にバス券等を交付（7,000円/年）</li> <li>地域MM：地域交通検討会、老人クラブ等の会合で啓発</li> <li>企業MM：エコ活動、C&amp;R等の取り組みの協力</li> <li>職員MM：エコ活動の日設定（毎月20日）、庁内放送</li> <li>学校MM：事業者主催のバス教室開催、乗り方DVDの配布</li> <li>来庁者MM：カウンター用椅子を利用した広告掲載、エコ活動の呼びかけ</li> <li>幹線路線への乗り継ぎを考慮した地域バス運行ダイヤ編成</li> <li>イベント時に公共交通を利用してもらうよう利用促進チラシの配布</li> <li>運行経費の一部負担</li> <li>市ホームページから運行事業者のホームページへのリンクを設定</li> <li>バス路線図の配属</li> <li>エコ活動の日を設定し、職員に対しバスをはじめとした公共交通機関の利用を促進</li> </ul>				



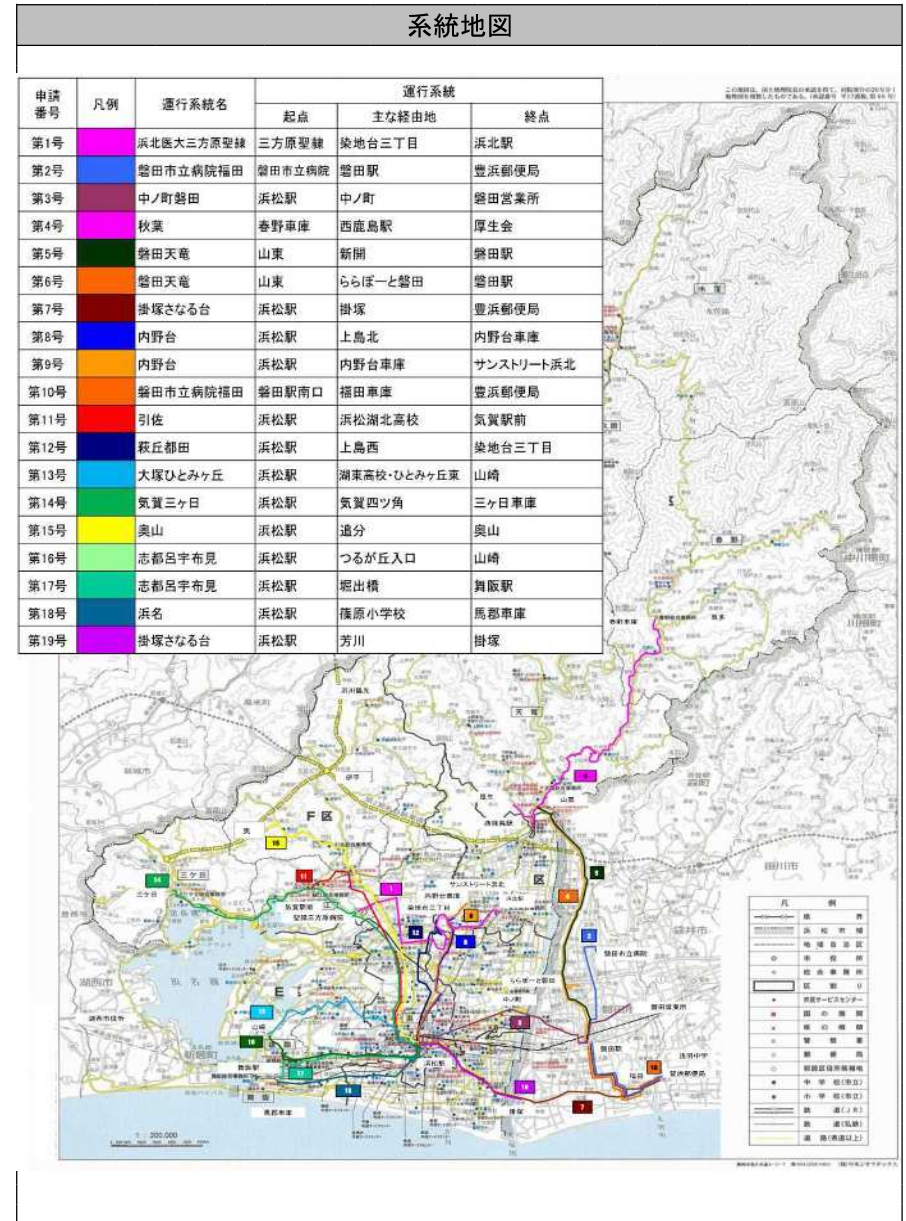
令和5年度運行分系統別利用実態（公表シート） 様式2

系統名	掛塚さなる台線			事業者名	遠州鉄道
路線の状況	起点	経由地	終点		
	浜松駅	掛塚	豊浜郵便局		
系統キロ程 (km)	17.3	輸送量 (人/日)	19.6		
平均乗車密度 (人/便)	4.8	運行回数 (回/日)	4.1		
公共・拠点施設 アクセス状況	学校	浜松修学舎、竜洋西小学校			
	病院				
	商業施設				
	その他	磐田市福田支所、JR浜松駅			
収支率 (%) (収益/費用)	57.2	乗車人員 (人)	55,840		
乗換可能な アクセス拠点等	拠点1 バス停7	名称	拠点：JR浜松駅バスターミナル バス停：東部協働センター、名塚西、芳川西、芳川、新道、前嶋、福田車庫		
広域利用状況 (%) (他市町へ行く利用者の割合)	34.7				
増収策	<p>①旅客動向の分析を行い、令和4年10月と令和5年4月にダイヤ改正を実施。                  ②ICカード乗車券のオートチャージ（自動積み増し）の利用を促進。                  ③高齢の免許返納者向けに、格安の全線定期券の販売を実施。                  ④定期券の継続購入に対して、WEBで申し込みを受け付け、営業窓口へ設置した券機にて定期券を発行するサービスを展開。                  ⑤定期券の新規購入に対して、WEBで申し込みを受け付け、営業窓口での受け渡しのほか配達でご自宅や最寄りコンビニエンスストアへ届けるサービスを展開。                  ⑥大手私鉄が提供するスマートフォン用MaaSアプリにおいて、デジタルフリー乗車券を販売。</p>				
費用削減策	<p>①デジタルタコグラフから得られたデータを、半自動的に加工するソフトを活用して分析を行い、その結果を使って運転方法の指導を実施。燃料費の削減や有責事故の撲滅に努めた。                  ②営業所再編や営業日変更を実施して、人件費抑制に努めた。                  (R2年10月) 雄踏営業所と館山寺営業所を統合し浜松西営業所として再編/天竜営業所を浜松東営業所の管轄車庫として再編。天竜営業所管轄の春野車庫を廃止。                  (R3年2月) ターミナル営業所を廃止し、ターミナル営業所管轄の松江町車庫を浜松東営業所の管轄車庫として再編。                  (R3年4月) 浜松南営業所を磐田営業所の管轄車庫として再編。                  (R3年5月) 浜松駅バスターミナル窓口を毎日営業から水曜日定休に運用変更                  (R4年12月) 磐田整備センターの窓口業務終了                  (R5年1月) 整備センターの窓口営業時間の短縮 9:00~17:50 → 9:30~17:00                  ③業務員交替作成をAIを使用し自動化することで、間接人件費の抑制と効率的な運用を実現した。</p>				
沿線市町のサポート	<ul style="list-style-type: none"> <li>障がいのある人にバス券等を交付 (7,000円/年)</li> <li>地域MM：地域交通検討会、老人クラブ等の会合で啓発</li> <li>企業MM：エコ活動、C&amp;R等の取り組みの協力</li> <li>職員MM：エコ活動の日設定 (毎月20日)、庁内放送</li> <li>学校MM：事業者主催のバス教室開催、乗り方DVDの配布</li> <li>来庁者MM：カウンター用椅子を利用した広告掲載、エコ活動の呼びかけ</li> <li>幹線路線への乗り継ぎを考慮した地域バス運行ダイヤ編成</li> <li>イベント時に公共交通を利用してもらうよう利用促進チラシの配布</li> <li>運行経費の一部負担</li> <li>市ホームページから運行事業者のホームページへのリンクを設定</li> <li>バス路線図の配属</li> <li>エコ活動の日を設定し、職員に対しバスをはじめとした公共交通機関の利用を促進</li> </ul>				



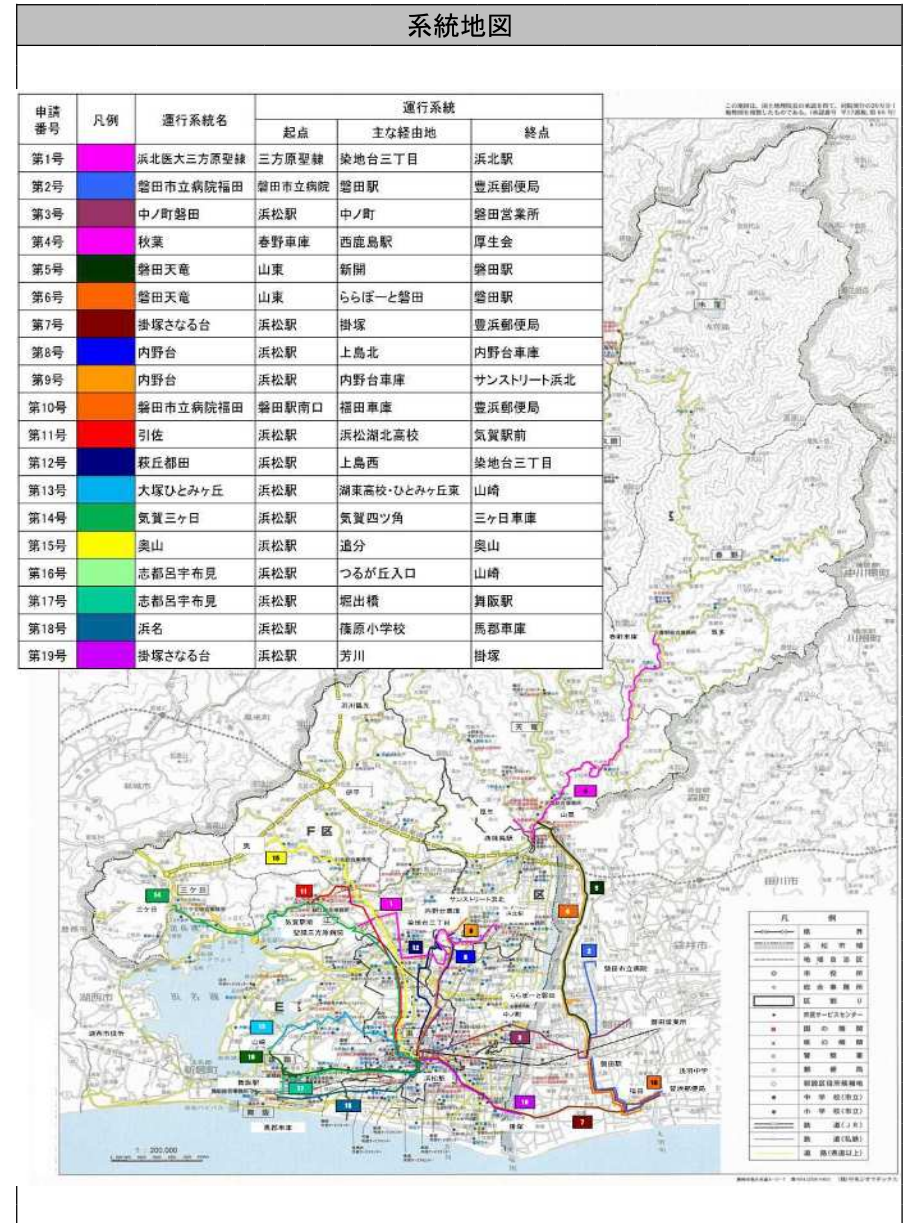
令和5年度運行分系統別利用実態（公表シート） 様式2

系統名	内野台線			事業者名	遠州鉄道
路線の状況	起点	経由地	終点		
	浜松駅	上島北	内野台車庫		
系統キロ程 (km)	12.7	輸送量 (人/日)	46.2		
平均乗車密度 (人/便)	5.5	運行回数 (回/日)	8.4		
公共・拠点施設 アクセス状況	学校				
	病院				
	商業施設				
	その他	浜松市役所、JR浜松駅、遠鉄上島駅			
収支率 (%) (収益/費用)	67.8		乗車人員 (人)	83,941	
乗換可能な アクセス拠点等	拠点2 バス停6	名称	拠点：JR浜松駅ターミナル、遠鉄上島駅 バス停：田町中央通り、尾張町、半田、環状線入口、福応寺、内野台三丁目		
広域利用状況 (%) (他市町へ行く利用者の割合)	42.5				
増収策	<p>①旅客動向の分析を行い、令和4年10月と令和5年4月にダイヤ改正を実施。                  ②ICカード乗車券のオートチャージ（自動積み増し）の利用を促進。                  ③高齢の免許返納者向けに、格安の全線定期券の販売を実施。                  ④定期券の継続購入に対して、WEBで申し込みを受け付け、営業窓口へ設置した券機にて定期券を発行するサービスを展開。                  ⑤定期券の新規購入に対して、WEBで申し込みを受け付け、営業窓口での受け渡しのほか配送でご自宅や最寄りコンビニエンスストアへ届けるサービスを展開。                  ⑥大手私鉄が提供するスマートフォン用MaaSアプリにおいて、デジタルフリー乗車券を販売。</p>				
費用削減策	<p>①デジタルタコグラフから得られたデータを、半自動的に加工するソフトを活用して分析を行い、その結果を使って運転方法の指導を実施。燃料費の削減や有責事故の撲滅に努めた。                  ②営業所再編や営業日変更を実施して、人件費抑制に努めた。                  (R2年10月) 雄踏営業所と館山寺営業所を統合し浜松西営業所として再編/天竜営業所を浜松東営業所の管轄車庫として再編。天竜営業所管轄の春野車庫を廃止。                  (R3年2月) ターミナル営業所を廃止し、ターミナル営業所管轄の松江町車庫を浜松東営業所の管轄車庫として再編。                  (R3年4月) 浜松南営業所を磐田営業所の管轄車庫として再編。                  (R3年5月) 浜松駅ターミナル窓口を毎日営業から水曜日定休に運用変更                  (R4年12月) 磐田整備センターの窓口業務終了                  (R5年1月) 整備センターの窓口営業時間の短縮 9:00~17:50 → 9:30~17:00                  ③乗務員交番作成をAIを使用し自動化することで、間接人件費の抑制と効率的な運用を実現した。</p>				
沿線市町のサポート	<ul style="list-style-type: none"> <li>障がいのある人にバス券等を交付 (7,000円/年)</li> <li>地域MM：地域交通検討会、老人クラブ等の会で啓発</li> <li>企業MM：エコ通勤、C&amp;R等の取り組みの協力</li> <li>職員MM：エコ通勤の日設定 (毎月20日)、庁内放送</li> <li>学校MM：事業者主催のバス教室開催、乗り方DVDの配布</li> <li>来庁者MM：カウンター用椅子を利用した広告掲載、エコ通勤の呼びかけ</li> <li>幹線路線への乗り継ぎを考慮した地域バス運行ダイヤ編成</li> <li>イベント時に公共交通を利用してもらうよう利用促進チラシの配布</li> </ul>				



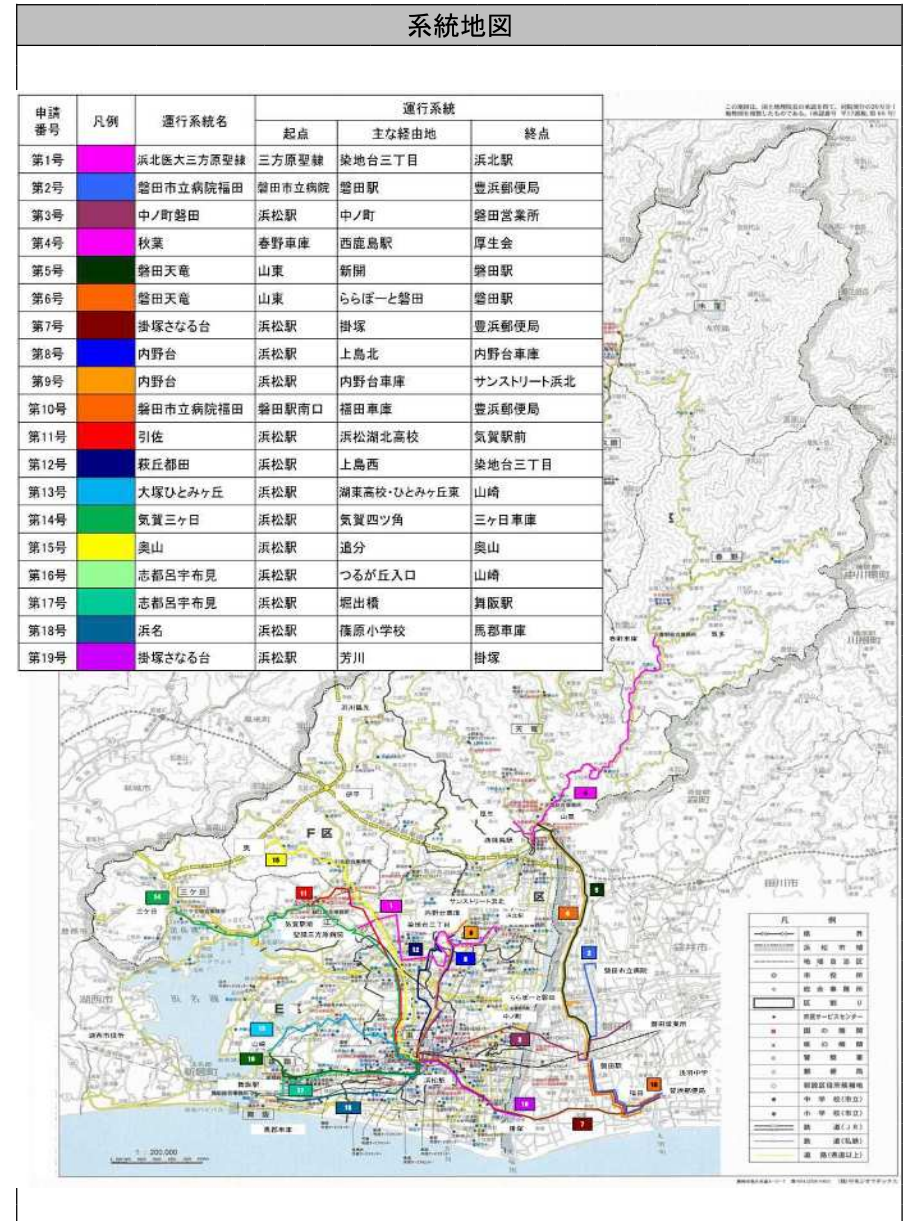
令和5年度運行分系統別利用実態（公表シート） 様式2

系統名	内野台線			事業者名	遠州鉄道
路線の状況	起点	経由地	終点		
	浜松駅	内野台車庫	サストリート浜北		
系統キロ程 (km)	14.3	輸送量 (人/日)	49.0		
平均乗車密度 (人/便)	5.7	運行回数 (回/日)	8.6		
公共・拠点施設 アクセス状況	学校	浜松北小学校			
	病院				
	商業施設	サストリート浜北			
	その他	浜松市役所、JR浜松駅、遠鉄上島駅			
収支率 (%) (収益/費用)	68.6		乗車人員 (人)	86,303	
乗換可能な アクセス拠点等	拠点2 バス停6	名称	拠点：JR浜松駅バスターミナル、遠鉄上島駅 バス停：田町中央通り、尾張町、半田、環状線入口、福応寺、内野台三丁目		
広域利用状況 (%) (他市町へ行く利用者の割合)	45.6				
増収策	<p>①旅客動向の分析を行い、令和4年10月と令和5年4月にダイヤ改正を実施。                  ②ICカード乗車券のオートチャージ（自動積み増し）の利用を促進。                  ③高齢の免許返納者向けに、格安の全線定期券の販売を実施。                  ④定期券の継続購入に対して、WEBで申し込みを受け付け、営業窓口へ設置した券機にて定期券を発行するサービスを展開。                  ⑤定期券の新規購入に対して、WEBで申し込みを受け付け、営業窓口での受け渡しのほか配送でご自宅や最寄りコンビニエンスストアへ届けるサービスを展開。                  ⑥大手私鉄が提供するスマートフォン用MaaSアプリにおいて、デジタルフリー乗車券を販売。</p>				
費用削減策	<p>①デジタルタコグラフから得られたデータを、半自動的に加工するソフトを活用して分析を行い、その結果を使って運転方法の指導を実施。燃料費の削減や有責事故の撲滅に努めた。                  ②営業所再編や営業日変更を実施して、人件費抑制に努めた。                  (R2年10月) 雄踏営業所と館山寺営業所を統合し浜松西営業所として再編/天竜営業所を浜松東営業所の管轄車庫として再編。天竜営業所管轄の春野車庫を廃止。                  (R3年2月) ターミナル営業所を廃止し、ターミナル営業所管轄の松江町車庫を浜松東営業所の管轄車庫として再編。                  (R3年4月) 浜松南営業所を磐田営業所の管轄車庫として再編。                  (R3年5月) 浜松駅バスターミナル窓口を毎日営業から水曜日定休に運用変更                  (R4年12月) 磐田整備センターの窓口業務終了                  (R5年1月) 整備センターの窓口営業時間の短縮 9:00~17:50 → 9:30~17:00                  ③乗務員交作成をAIを使用し自動化することで、間接人件費の抑制と効率的な運用を実現した。</p>				
沿線市町のサポート	<ul style="list-style-type: none"> <li>障がいのある人にバス券等を交付 (7,000円/年)</li> <li>地域MM：地域交通検討会、老人クラブ等の会で啓発</li> <li>企業MM：エコ通勤、C&amp;R等の取り組みの協力</li> <li>職員MM：エコ通勤の日設定 (毎月20日)、庁内放送</li> <li>学校MM：事業者主催のバス教室開催、乗り方DVDの配布</li> <li>来庁者MM：カウンター用椅子を利用した広告掲載、エコ通勤の呼びかけ</li> <li>幹線路線への乗り継ぎを考慮した地域バス運行ダイヤ編成</li> <li>イベント時に公共交通を利用してもらうよう利用促進チラシの配布</li> </ul>				



令和5年度運行分系統別利用実態（公表シート） 様式2

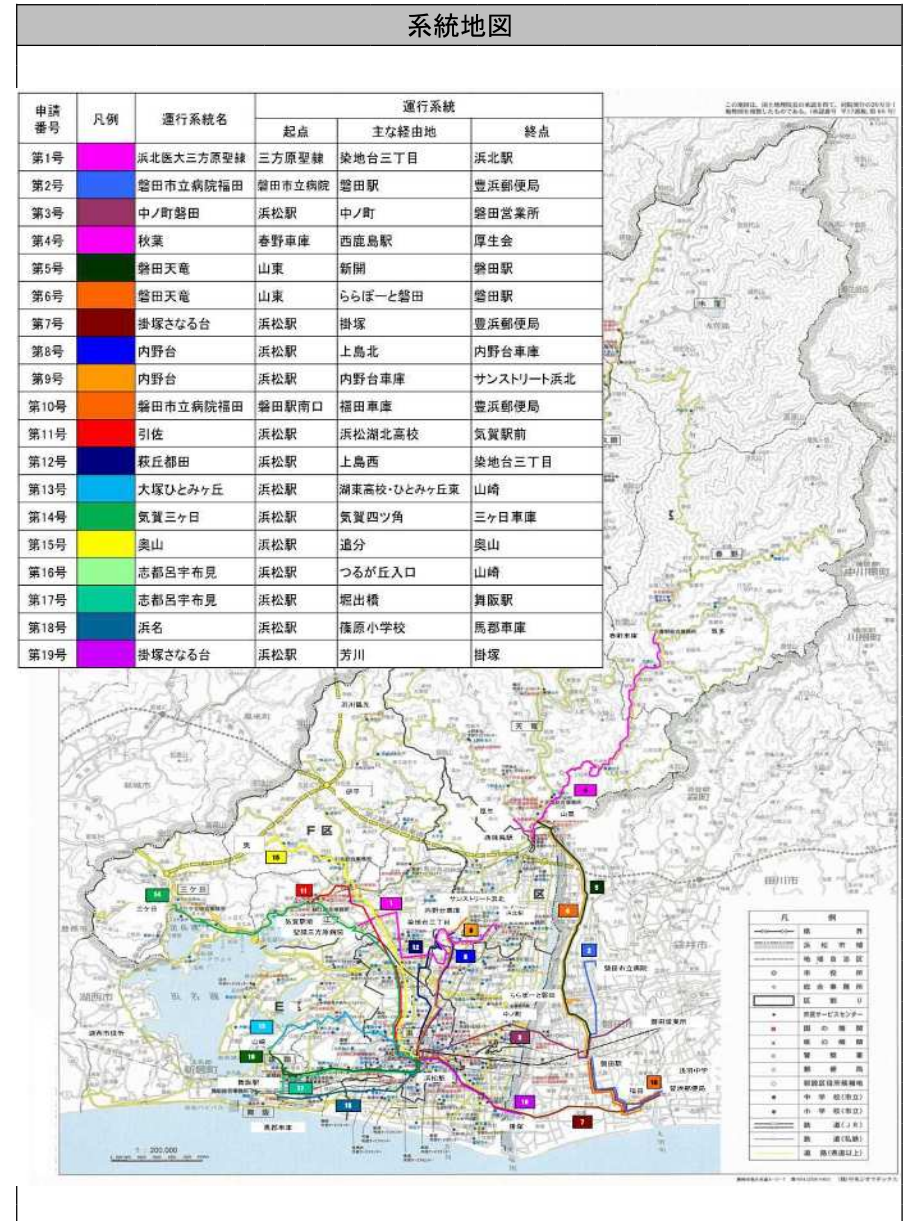
系統名	磐田市立病院福田線			事業者名	遠州鉄道
路線の状況	起点	経由地	終点		
	磐田駅南口	福田車庫	豊浜郵便局		
系統キロ程 (km)	9.4	輸送量 (人/日)	21.7		
平均乗車密度 (人/便)	3.2	運行回数 (回/日)	6.8		
公共・拠点施設 アクセス状況	学校	静岡産業大学			
	病院	新都市病院			
	商業施設				
	その他	磐田市福田支所、JR磐田駅			
収支率 (%) (収益/費用)	47.2		乗車人員 (人)	46,892	
乗換可能な アクセス拠点等	拠点1 バス停3	名称	拠点：JR磐田駅南口 バス停：新道・前嶋・福田車庫		
広域利用状況 (%) (他市町へ行く利用者の割合)	61.8				
増収策	<p>①旅客動向の分析を行い、令和4年10月と令和5年4月にダイヤ改正を実施。                  ②ICカード乗車券のオートチャージ（自動積み増し）の利用を促進。                  ③高齢の免許返納者向けに、格安の全線定期券の販売を実施。                  ④定期券の継続購入に対して、WEBで申し込みを受け付け、営業窓口へ設置した発券機にて定期券を発行するサービスを展開。                  ⑤定期券の新規購入に対して、WEBで申し込みを受け付け、営業窓口での受け渡しのほか配送でご自宅や最寄りコンビニエンスストアへ届けるサービスを展開。                  ⑥大手私鉄が提供するスマートフォン用MaaSアプリにおいて、デジタルフリー乗車券を販売。</p>				
費用削減策	<p>①デジタルタコグラフから得られたデータを、半自動的に加工するソフトを活用して分析を行い、その結果を使って運転方法の指導を実施。燃料費の削減や有責事故の撲滅に努めた。                  ②営業所再編や営業日変更を実施して、人件費抑制に努めた。                  (R2年10月) 雄踏営業所と館山寺営業所を統合し浜松西営業所として再編/天竜営業所を浜松東営業所の管轄車庫として再編。天竜営業所管轄の春野車庫を廃止。                  (R3年2月) ターミナル営業所を廃止し、ターミナル営業所管轄の松江町車庫を浜松東営業所の管轄車庫として再編。                  (R3年4月) 浜松南営業所を磐田営業所の管轄車庫として再編。                  (R3年5月) 浜松駅バスターミナル窓口を毎日営業から水曜日定休に運用変更                  (R4年12月) 磐田整備センターの窓口業務終了                  (R5年1月) 整備センターの窓口営業時間の短縮 9:00~17:50 → 9:30~17:00                  ③乗務員交替作成をAIを使用し自動化することで、間接人件費の抑制と効率的な運用を実現した。</p>				
沿線市町のサポート	<ul style="list-style-type: none"> <li>運行経費の一部負担</li> <li>市ホームページから運行事業者のホームページへのリンクを設定</li> <li>バス路線図の配置</li> <li>エコ通勤の日を設定し、職員に対しバスをはじめとした公共交通機関の利用を促進</li> </ul>				





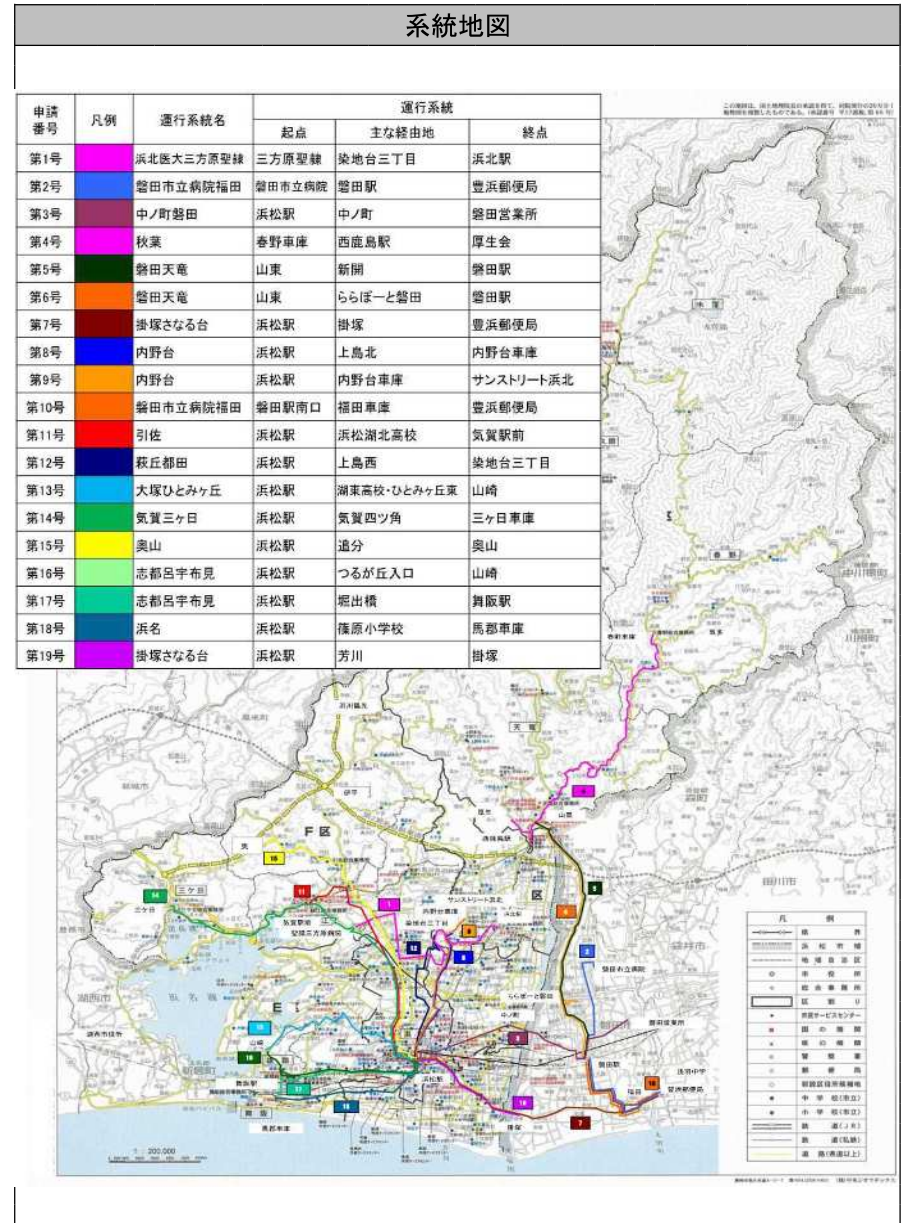
令和5年度運行分系統別利用実態（公表シート） 様式2

系統名	引佐線			事業者名	遠州鉄道
路線の状況	起点	経由地	終点		
	浜松駅	浜松湖北高校	気賀駅前		
系統キロ程 (km)	18.6	輸送量 (人/日)	71.2		
平均乗車密度 (人/便)	7.5	運行回数 (回/日)	9.5		
公共・拠点施設 アクセス状況	学校	静岡大学、浜松北高校、浜松市立高校、開誠館高校、浜松湖北高校			
	病院	聖隷浜松病院			
	商業施設				
	その他	浜松市役所、JR浜松駅、天浜線金指駅、天浜線気賀駅			
収支率 (%) (収益/費用)	83.7		乗車人員 (人)	190,427	
乗換可能な アクセス拠点等	拠点3 バス停15	名称	<small>拠点：JR浜松駅(ターミナル)、天浜線金指駅、天浜線気賀駅 バス停：田町中央通り・伊の木通り・元成町・市役所前・鹿谷町・浜松北高・六間坂上・住吉町・和合町・妻町・遠分・北星中 学入口・新慶院・根洗・浜松湖北高校</small>		
広域利用状況 (%) (他市町へ行く利用者の割合)	31.7				
増収策	①旅客動向の分析を行い、令和4年10月と令和5年4月にダイヤ改正を実施。 ②ICカード乗車券のオートチャージ（自動積み増し）の利用を促進。 ③高齢の免許返納者向けに、格安の全線定期券の販売を実施。 ④定期券の継続購入に対して、WEBで申し込みを受け付け、営業窓口へ設置した券機にて定期券を発行するサービスを展開。 ⑤定期券の新規購入に対して、WEBで申し込みを受け付け、営業窓口での受け渡しのほか配送でご自宅や最寄りコンビニエンスストアへ届けるサービスを展開。 ⑥大手私鉄が提供するスマートフォン用MaaSアプリにおいて、デジタルフリー乗車券を販売。				
費用削減策	①デジタルタコグラフから得られたデータを、半自動的に加工するソフトを活用して分析を行い、その結果を使って運転方法の指導を実施。燃料費の削減や有責事故の撲滅に努めた。 ②営業所再編や営業日変更を実施して、人件費抑制に努めた。 (R2年10月) 雄踏営業所と館山寺営業所を統合し浜松西営業所として再編/天竜営業所を浜松東営業所の管轄車庫として再編。天竜営業所管轄の春野車庫を廃止。 (R3年2月) ターミナル営業所を廃止し、ターミナル営業所管轄の松江町車庫を浜松東営業所の管轄車庫として再編。 (R3年4月) 浜松南営業所を磐田営業所の管轄車庫として再編。 (R3年5月) 浜松駅バスターミナル窓口を毎日営業から水曜日定休に運用変更 (R4年12月) 磐田整備センターの窓口業務終了 (R5年1月) 整備センターの窓口営業時間の短縮 9:00~17:50 → 9:30~17:00 ③乗務員交番作成をAIを使用し自動化することで、間接人件費の抑制と効率的な運用を実現した。				
沿線市町のサポート	<ul style="list-style-type: none"> <li>障がいのある人にバス券等を交付 (7,000円/年)</li> <li>地域MM：地域交通検討会、老人クラブ等の会合で啓発</li> <li>企業MM：エコ通勤、C&amp;R等の取り組みの協力</li> <li>職員MM：エコ通勤の日設定 (毎月20日)、庁内放送</li> <li>学校MM：事業者主催のバス教室開催、乗り方DVDの配布</li> <li>来庁者MM：カウンター用椅子を利用した広告掲載、エコ通勤の呼びかけ</li> <li>幹線路線への乗り継ぎを考慮した地域バス運行ダイヤ編成</li> <li>イベント時に公共交通を利用してもらうよう利用促進チラシの配布</li> </ul>				



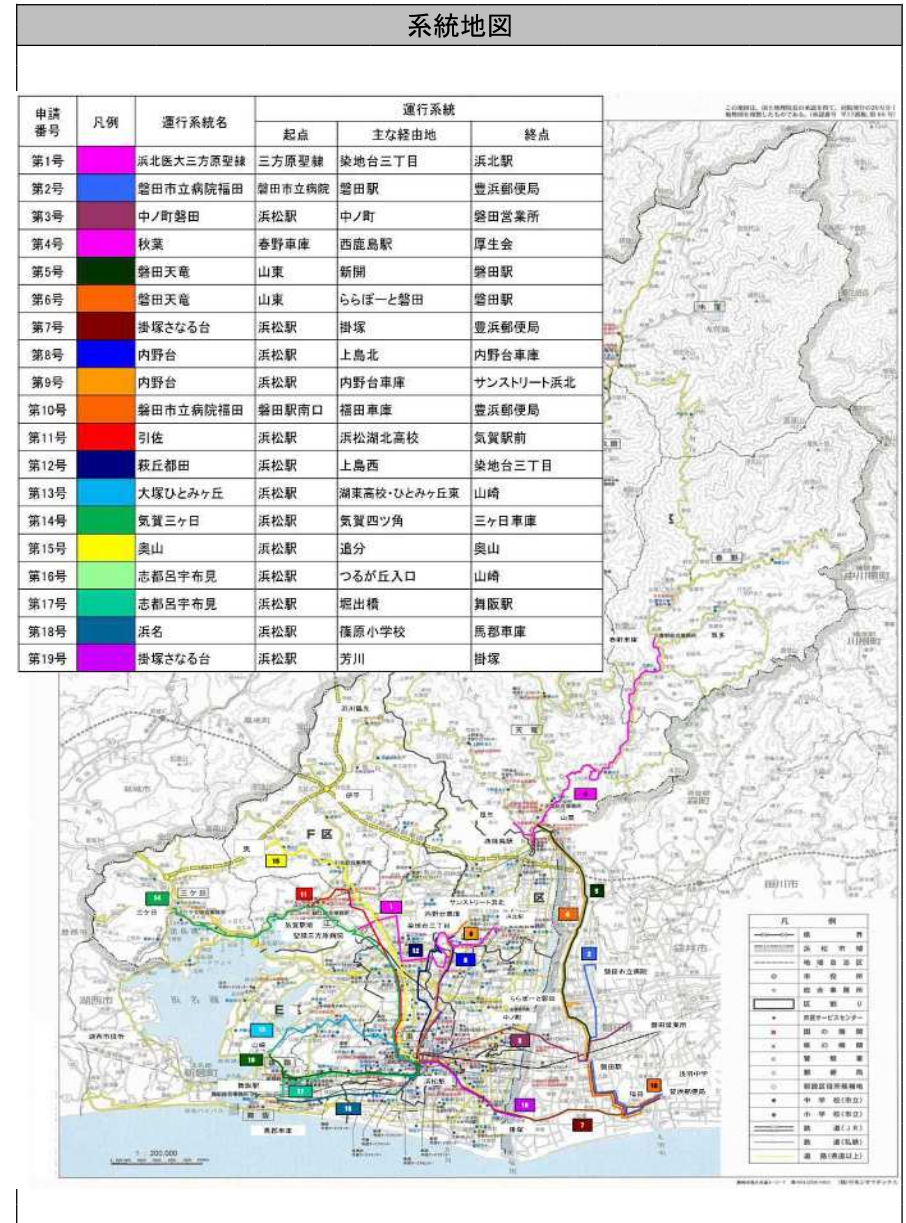
令和5年度運行分系統別利用実態（公表シート） 様式2

系統名	萩丘都田線			事業者名	遠州鉄道
路線の状況	起点	経由地	終点		
	浜松駅	上島西	染地台三丁目		
系統キロ程 (km)	12.3	輸送量 (人/日)	29.5		
平均乗車密度 (人/便)	5.9	運行回数 (回/日)	5.0		
公共・拠点施設 アクセス状況	学校	浜松学芸高校、浜松学院高校			
	病院				
	商業施設				
	その他	浜松市役所、JR浜松駅			
収支率 (%) (収益/費用)	78.0		乗車人員 (人)	64,328	
乗換可能な アクセス拠点等	拠点1 バス停8	名称	拠点：JR浜松駅バスターミナル バス停：かじ町、元城町、市役所前、浜松城公園入口、常楽寺、萩丘、長池、三方原営業所		
広域利用状況 (%) (他市町へ行く利用者の割合)	19.9				
増収策	<p>①旅客動向の分析を行い、令和4年10月と令和5年4月にダイヤ改正を実施。                  ②ICカード乗車券のオートチャージ（自動積み増し）の利用を促進。                  ③高齢の免許返納者向けに、格安の全線定期券の販売を実施。                  ④定期券の継続購入に対して、WEBで申し込みを受け付け、営業窓口へ設置した券機にて定期券を発行するサービスを展開。                  ⑤定期券の新規購入に対して、WEBで申し込みを受け付け、営業窓口での受け渡しのほか配送で自宅や最寄りコンビニエンスストアへ届けるサービスを展開。                  ⑥大手私鉄が提供するスマートフォン用MaaSアプリにおいて、デジタルフリー乗車券を販売。</p>				
費用削減策	<p>①デジタルタコグラフから得られたデータを、半自動的に加工するソフトを活用して分析を行い、その結果を使って運転方法の指導を実施。燃料費の削減や有責事故の撲滅に努めた。                  ②営業所再編や営業日変更を実施して、人件費抑制に努めた。                  (R2年10月) 雄踏営業所と館山寺営業所を統合し浜松西営業所として再編/天竜営業所を浜松東営業所の管轄車庫として再編。天竜営業所管轄の春野車庫を廃止。                  (R3年2月) ターミナル営業所を廃止し、ターミナル営業所管轄の松江町車庫を浜松東営業所の管轄車庫として再編。                  (R3年4月) 浜松南営業所を磐田営業所の管轄車庫として再編。                  (R3年5月) 浜松駅バスターミナル窓口を毎日営業から水曜日定休に運用変更                  (R4年12月) 磐田整備センターの窓口業務終了                  (R5年1月) 整備センターの窓口営業時間の短縮 9:00~17:50 → 9:30~17:00                  ③業務員交番作成をAIを使用し自動化することで、間接人件費の抑制と効率的な運用を実現した。</p>				
沿線市町のサポート	<ul style="list-style-type: none"> <li>障がいのある人にバス券等を交付 (7,000円/年)</li> <li>地域MM：地域交通検討会、老人クラブ等の会合で啓発</li> <li>企業MM：エコ通勤、C&amp;R等の取り組みの協力</li> <li>職員MM：エコ通勤の日設定 (毎月20日)、庁内放送</li> <li>学校MM：事業者主催のバス教室開催、乗り方DVDの配布</li> <li>来庁者MM：カウンター用椅子を利用した広告掲載、エコ通勤の呼びかけ</li> <li>幹線路線への乗り継ぎを考慮した地域バス運行ダイヤ編成</li> <li>イベント時に公共交通を利用してもらうよう利用促進チラシの配布</li> </ul>				



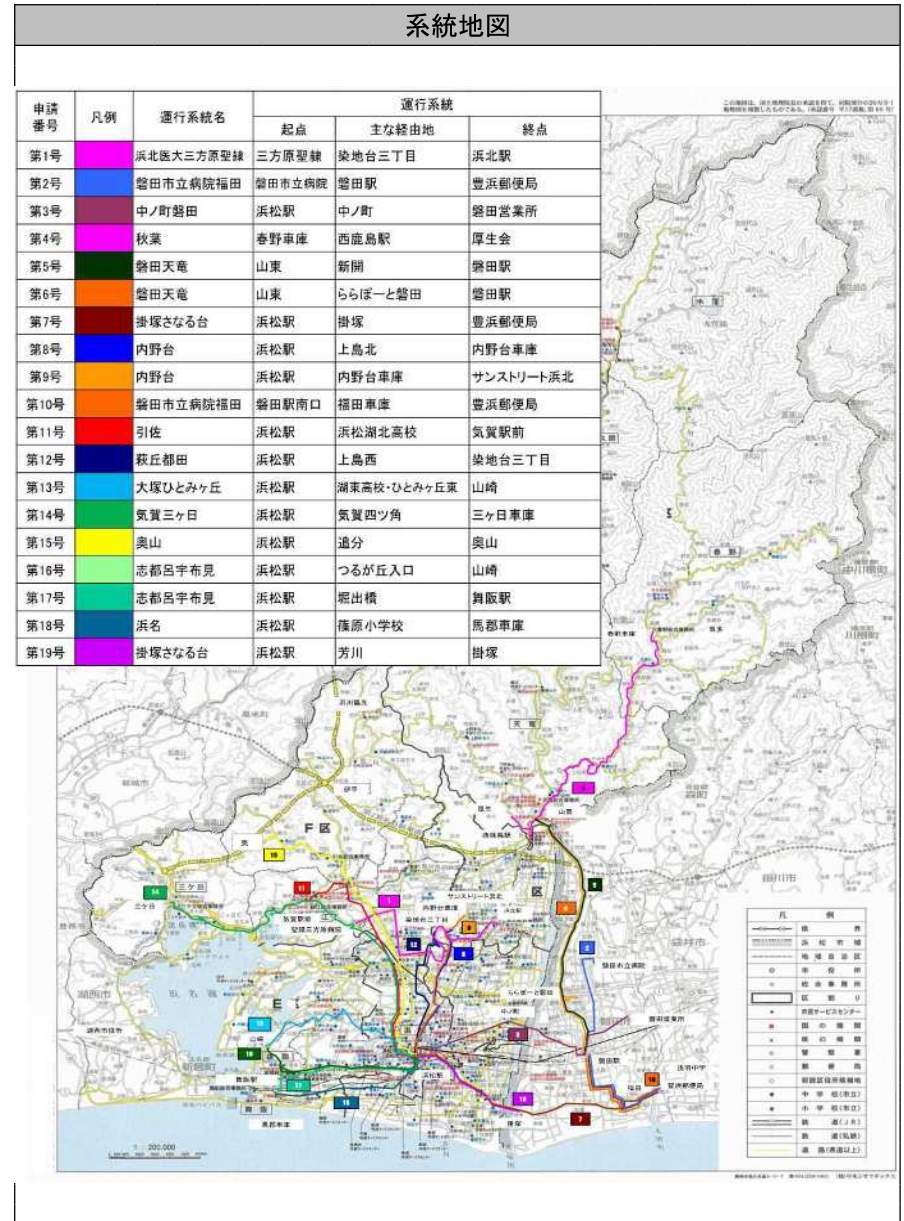
令和5年度運行分系統別利用実態（公表シート） 様式2

系統名	大塚ひとみヶ丘線			事業者名	遠州鉄道
路線の状況	起点	経由地	終点		
	浜松駅	湖東高校・ひとみヶ丘東	山崎		
系統キロ程 (km)	15.2	輸送量 (人/日)	85.5		
平均乗車密度 (人/便)	6.2	運行回数 (回/日)	13.8		
公共・拠点施設 アクセス状況	学校	浜松学院大学・浜松北高校・開誠館高校・浜松市立高校・浜松商業高校・浜松湖東高校・静岡大学附属小学校・中学校・富塚中学校・富塚小学校			
	病院				
	商業施設				
	その他	神久呂協働センター、浜松市役所、JR浜松駅			
収支率 (%) (収益/費用)	77.3		乗車人員 (人)	116,124	
乗換可能な アクセス拠点等	拠点1 バス停11	名称	拠点：JR浜松駅(ターミナル) バス停：田町中央通り、尾張町、市役所前、鹿谷町、浜松北高、富塚、富塚西、狸坂、神田原、古人見東、山崎		
広域利用状況 (%) (他市町へ行く利用者の割合)	2.3				
増収策	<p>①旅客動向の分析を行い、令和4年10月と令和5年4月にダイヤ改正を実施。                  ②ICカード乗車券のオートチャージ（自動積み増し）の利用を促進。                  ③高齢の免許返納者向けに、格安の全線定期券の販売を実施。                  ④定期券の継続購入に対して、WEBで申し込みを受け付け、営業窓口へ設置した券機にて定期券を発行するサービスを展開。                  ⑤定期券の新規購入に対して、WEBで申し込みを受け付け、営業窓口での受け渡しのほか配送でご自宅や最寄りコンビニエンスストアへ届けるサービスを展開。                  ⑥大手私鉄が提供するスマートフォン用MaaSアプリにおいて、デジタルフリー乗車券を販売。</p>				
費用削減策	<p>①デジタルタコグラフから得られたデータを、半自動的に加工するソフトを活用して分析を行い、その結果を使って運転方法の指導を実施。燃料費の削減や有責事故の撲滅に努めた。                  ②営業所再編や営業日変更を実施して、人件費抑制に努めた。                  (R2年10月) 雄踏営業所と錦山寺営業所を統合し浜松西営業所として再編/天竜営業所を浜松東営業所の管轄車庫として再編。天竜営業所管轄の春野車庫を廃止。                  (R3年2月) ターミナル営業所を廃止し、ターミナル営業所管轄の松江町車庫を浜松東営業所の管轄車庫として再編。                  (R3年4月) 浜松南営業所を磐田営業所の管轄車庫として再編。                  (R3年5月) 浜松駅(ターミナル)窓口を毎日営業から水曜日定休に運用変更                  (R4年12月) 磐田整備センターの窓口業務終了                  (R5年1月) 整備センターの窓口営業時間の短縮 9:00~17:50 → 9:30~17:00                  ③業務員交替作成をAIを使用し自動化することで、間接人件費の抑制と効率的な運用を実現した。</p>				
沿線市町のサポート	<ul style="list-style-type: none"> <li>障がいのある人にバス券等を交付 (7,000円/年)</li> <li>地域MM：地域交通検討会、老人クラブ等の会合で啓発</li> <li>企業MM：エコ通勤、C&amp;R等の取り組みの協力</li> <li>職員MM：エコ通勤の日設定 (毎月20日)、庁内放送</li> <li>学校MM：事業者主催のバス教室開催、乗り方DVDの配布</li> <li>来庁者MM：カウンター用椅子を利用した広告掲載、エコ通勤の呼びかけ</li> <li>幹線路線への乗り継ぎを考慮した地域バス運行ダイヤ編成</li> <li>イベント時に公共交通を利用してもらうよう利用促進チラシの配布</li> </ul>				



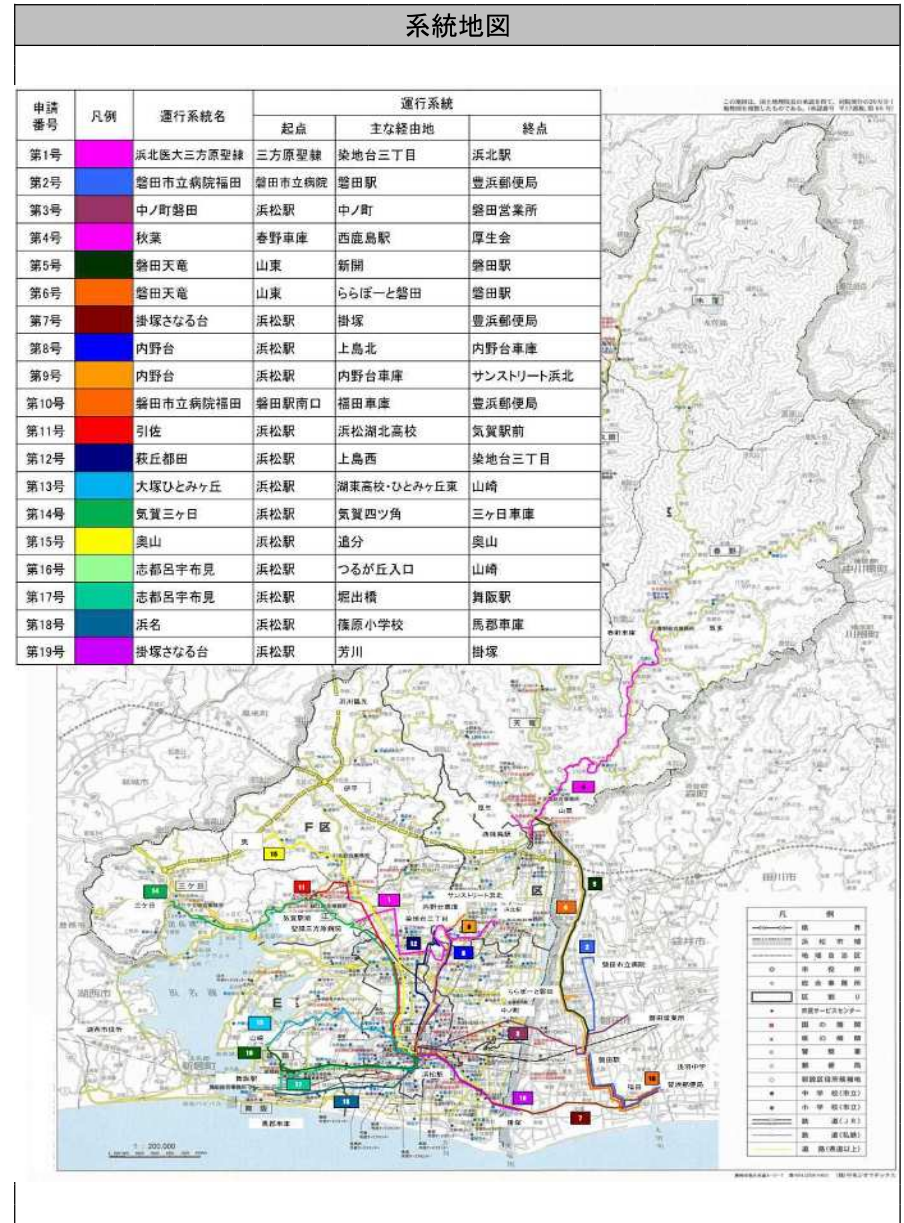
令和5年度運行分系統別利用実態（公表シート） 様式2

系統名	気賀三ヶ日線			事業者名	遠州鉄道
路線の状況	起点	経由地	終点		
	浜松駅	気賀四ツ角	三ヶ日車庫		
系統キロ程 (km)	30.1	輸送量 (人/日)	61.0		
平均乗車密度 (人/便)	7.1	運行回数 (回/日)	8.6		
公共・拠点施設 アクセス状況	学校	静岡大学、聖隷クリストファー大学、浜松北高校、浜松市立高校、開誠館高校、浜松湖北高校			
	病院	聖隷浜松病院、聖隷三方原病院			
	商業施設				
	その他	浜松市役所、北区役所、三ヶ日協働センター、JR浜松駅、天浜金指駅、天浜気賀駅			
収支率 (%) (収益/費用)	65.5		乗車人員 (人)	216,440	
乗換可能な アクセス拠点等	拠点2 バス停11	名称	拠点を：JR浜松駅(ターミナル)、片町(天浜気賀駅) バス停：田町中央通り・伊の木の通り・元町町・市役所前・備前町・浜松北高・六間橋上・住吉町・相合町・葵町・辺分		
広域利用状況 (%) (他市町へ行く利用者の割合)	29.1				
増収策	①旅客動向の分析を行い、令和4年10月と令和5年4月にダイヤ改正を実施。 ②ICカード乗車券のオートチャージ（自動積み増し）の利用を促進。 ③高齢の免許返納者向けに、格安の全線定期券の販売を実施。 ④定期券の継続購入に対して、WEBで申し込みを受け付け、営業窓口へ設置した券機にて定期券を発行するサービスを展開。 ⑤定期券の新規購入に対して、WEBで申し込みを受け付け、営業窓口での受け渡しのほか配送でご自宅や最寄りコンビニエンスストアへ届けるサービスを展開。 ⑥大手私鉄が提供するスマートフォン用MaaSアプリにおいて、デジタルフリー乗車券を販売。				
費用削減策	①デジタルタコグラフから得られたデータを、半自動的に加工するソフトを活用して分析を行い、その結果を使って運転方法の指導を実施。燃料費の削減や有責事故の撲滅に努めた。 ②営業所再編や営業日変更を実施して、人件費抑制に努めた。 (R2年10月) 雄踏営業所と館山寺営業所を統合し浜松西営業所として再編/天竜営業所を浜松東営業所の管轄車庫として再編。天竜営業所管轄の春野車庫を廃止。 (R3年2月) ターミナル営業所を廃止し、ターミナル営業所管轄の松江町車庫を浜松東営業所の管轄車庫として再編。 (R3年4月) 浜松南営業所を磐田営業所の管轄車庫として再編。 (R3年5月) 浜松駅バスターミナル窓口を毎日営業から水曜日定休に運用変更 (R4年12月) 磐田整備センターの窓口業務終了 (R5年1月) 整備センターの窓口営業時間の短縮 9:00~17:50 → 9:30~17:00 ③乗務員交替作成をAIを使用し自動化することで、間接人件費の抑制と効率的な運用を実現した。				
沿線市町のサポート	<ul style="list-style-type: none"> <li>障がいのある人にバス券等を交付 (7,000円/年)</li> <li>地域MM：地域交通検討会、老人クラブ等の会合で啓発</li> <li>企業MM：エコ通勤、C&amp;R等の取り組みの協力</li> <li>職員MM：エコ通勤の日設定(毎月20日)、庁内放送</li> <li>学校MM：事業者主催のバス教室開催、乗り方DVDの配布</li> <li>来庁者MM：カウンター用椅子を利用した広告掲載、エコ通勤の呼びかけ</li> <li>幹線路線への乗り継ぎを考慮した地域バス運行ダイヤ編成</li> <li>イベント時に公共交通を利用してもらうよう利用促進チラシの配布</li> </ul>				



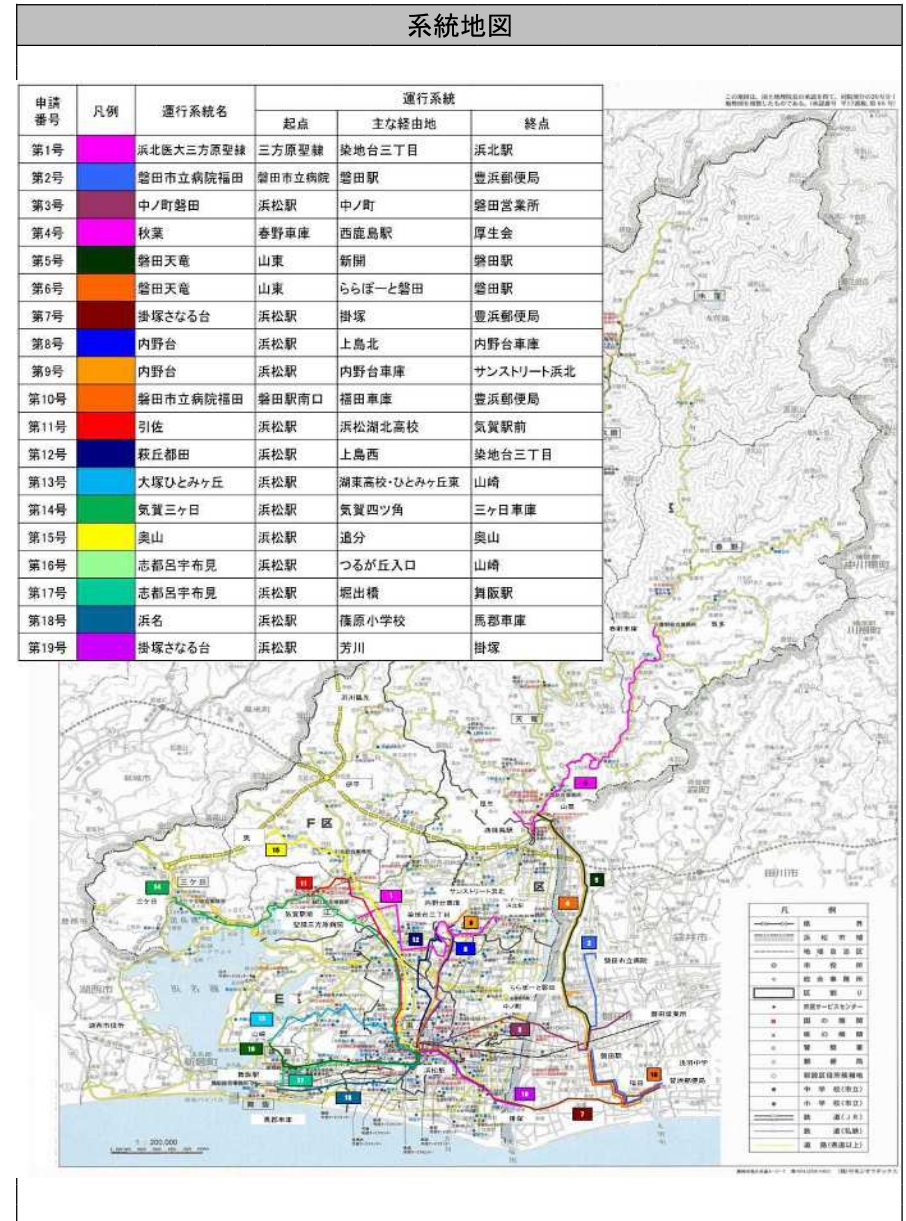
令和5年度運行分系統別利用実態（公表シート） 様式2

系統名	奥山線			事業者名	遠州鉄道
路線の状況	起点	経由地	終点		
	浜松駅	追分	奥山		
系統キロ程 (km)	24.6	輸送量 (人/日)	92.1		
平均乗車密度 (人/便)	6.4	運行回数 (回/日)	14.4		
公共・拠点施設 アクセス状況	学校	静岡大学・聖隷クリストファー大学・浜松北高校・浜松市立高校・開誠館高校・浜松湖北高校			
	病院	聖隷浜松病院・聖隷三方原病院			
	商業施設				
	その他	浜松市役所・引佐協働センター・JR浜松駅・天浜金指駅			
収支率 (%) (収益/費用)	66.3		乗車人員 (人)	266,526	
乗換可能な アクセス拠点等	拠点2 バス停10	名称	拠点：浜松駅バスターミナル・金指（天浜金指駅） バス停：田町中央通り・ゆりの木通り・元城町・市役所南・鹿谷町・浜松北高・六間坂上 住吉町・和合町・葵町・追分		
広域利用状況 (%) (他市町へ行く利用者の割合)	37.5				
増収策	<p>①旅客動向の分析を行い、令和4年10月と令和5年4月にダイヤ改正を実施。                  ②ICカード乗車券のオートチャージ（自動積み増し）の利用を促進。                  ③高齢の免許返納者向けに、格安の全線定期券の販売を実施。                  ④定期券の継続購入に対して、WEBで申し込みを受け付け、営業窓口へ設置した券機にて定期券を発行するサービスを展開。                  ⑤定期券の新規購入に対して、WEBで申し込みを受け付け、営業窓口での受け渡しのほか配送でご自宅や最寄りコンビニエンスストアへ届けるサービスを展開。                  ⑥大手私鉄が提供するスマートフォン用MaaSアプリにおいて、デジタルフリー乗車券を販売。</p>				
費用削減策	<p>①デジタルタコグラフから得られたデータを、半自動的に加工するソフトを活用して分析を行い、その結果を使って運転方法の指導を実施。燃料費の削減や有責事故の撲滅に努めた。                  ②営業所再編や営業日変更を実施して、人件費抑制に努めた。                  (R2年10月) 雄踏営業所と館山寺営業所を統合し浜松西営業所として再編/天竜営業所を浜松東営業所の管轄車庫として再編。天竜営業所管轄の春野車庫を廃止。                  (R3年2月) ターミナル営業所を廃止し、ターミナル営業所管轄の松江町車庫を浜松東営業所の管轄車庫として再編。                  (R3年4月) 浜松南営業所を磐田営業所の管轄車庫として再編。                  (R3年5月) 浜松駅バスターミナル窓口を毎日営業から水曜日定休に運用変更                  (R4年12月) 磐田整備センターの窓口業務終了                  (R5年1月) 整備センターの窓口営業時間の短縮 9:00~17:50 → 9:30~17:00                  ③乗務員交番作成をAIを使用し自動化することで、間接人件費の抑制と効率的な運用を実現した。</p>				
沿線市町のサポート	<ul style="list-style-type: none"> <li>障がいのある人にバス券等を交付（7,000円/年）</li> <li>地域MM：地域交通検討会、老人クラブ等の会合で啓発</li> <li>企業MM：エコ通勤、C&amp;R等の取り組みの協力</li> <li>職員MM：エコ通勤の日設定（毎月20日）、庁内放送</li> <li>学校MM：事業者主催のバス教室開催、乗り方DVDの配布</li> <li>来庁者MM：カウンター用椅子を利用した広告掲載、エコ通勤の呼びかけ</li> <li>幹線路線への乗り継ぎを考慮した地域バス運行ダイヤ編成</li> <li>イベント時に公共交通を利用してもらうよう利用促進チラシの配布</li> </ul>				



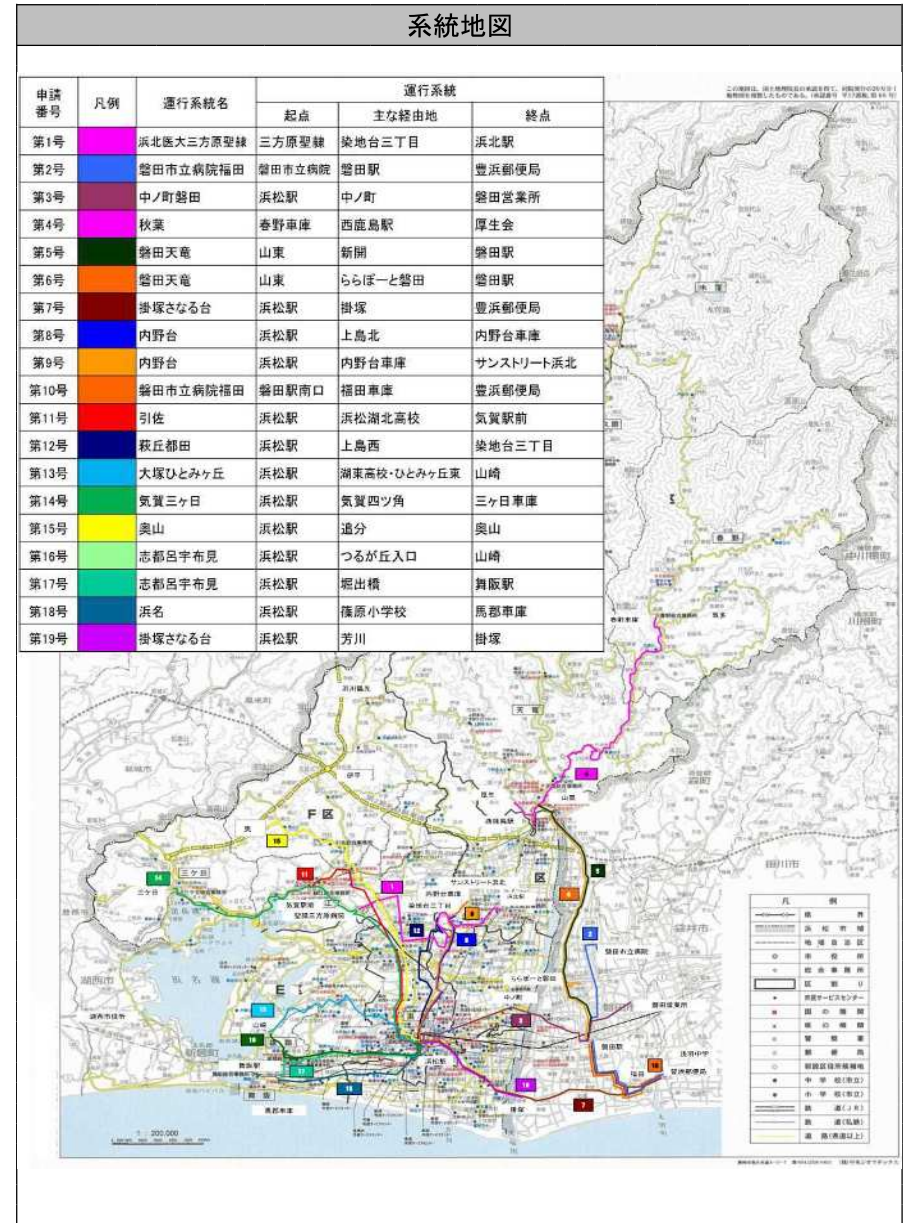
令和5年度運行分系統別利用実態（公表シート） 様式2

系統名	志都呂宇布見線			事業者名	遠州鉄道
路線の状況	起点	経由地	終点		
	浜松駅	つるが丘入口	山崎		
系統キロ程 (km)	12.4	輸送量 (人/日)	164.9		
平均乗車密度 (人/便)	6.2	運行回数 (回/日)	26.6		
公共・拠点施設 アクセス状況	学校	浜松西高校、雄踏小学校			
	病院				
	商業施設	イオン浜松西店、イオンモール浜松志都呂			
	その他	JR浜松駅、浜松商工会議所、浜松西郵便局、西区役所、雄踏図書館、JR東海浜松工場			
収支率 (%) (収益/費用)	82.8	乗車人員 (人)	407,227		
乗換可能な アクセス拠点等	拠点1 バス停5	名称	拠点：浜松駅バスターミナル バス停：ザザシティ前、成子坂、イオン浜松西店入口、入野西、山崎		
広域利用状況 (%) (他市町へ行く利用者の割合)	19.0				
増収策	<p>①旅客動向の分析を行い、令和4年10月と令和5年4月にダイヤ改正を実施。                  ②ICカード乗車券のオートチャージ（自動積み増し）の利用を促進。                  ③高齢の免許返納者向けに、格安の全線定期券の販売を実施。                  ④定期券の継続購入に対して、WEBで申し込みを受け付け、営業窓口へ設置した券機にて定期券を発行するサービスを展開。                  ⑤定期券の新規購入に対して、WEBで申し込みを受け付け、営業窓口での受け渡しのほか配送でご自宅や最寄りコンビニエンスストアへ届けるサービスを展開。                  ⑥大手私鉄が提供するスマートフォン用MaaSアプリにおいて、デジタルフリー乗車券を販売。</p>				
費用削減策	<p>①デジタルタコグラフから得られたデータを、半自動的に加工するソフトを活用して分析を行い、その結果を使って運転方法の指導を実施。燃料費の削減や有責事故の撲滅に努めた。                  ②営業所再編や営業日変更を実施して、人件費抑制に努めた。                  (R2年10月) 雄踏営業所と館山寺営業所を統合し浜松西営業所として再編/天竜営業所を浜松東営業所の管轄車庫として再編。天竜営業所管轄の春野車庫を廃止。                  (R3年2月) ターミナル営業所を廃止し、ターミナル営業所管轄の松江町車庫を浜松東営業所の管轄車庫として再編。                  (R3年4月) 浜松南営業所を磐田営業所の管轄車庫として再編。                  (R3年5月) 浜松駅バスターミナル窓口を毎日営業から水曜日定休に運用変更                  (R4年12月) 磐田整備センターの窓口業務終了                  (R5年1月) 整備センターの窓口営業時間の短縮 9:00~17:50 → 9:30~17:00                  ③乗務員交番作成をAIを使用し自動化することで、間接人件費の抑制と効率的な運用を実現した。</p>				
沿線市町のサポート	<ul style="list-style-type: none"> <li>障がいのある人にバス券等を交付 (7,000円/年)</li> <li>地域MM：地域交通検討会、老人クラブ等の会で啓発</li> <li>企業MM：エコ通勤、C&amp;R等の取り組みの協力</li> <li>職員MM：エコ通勤の日設定 (毎月20日)、庁内放送</li> <li>学校MM：事業者主催のバス教室開催、乗り方DVDの配布</li> <li>来庁者MM：カウンター用椅子を利用した広告掲載、エコ通勤の呼びかけ</li> <li>幹線路線への乗り継ぎを考慮した地域バス運行ダイヤ編成</li> <li>イベント時に公共交通を利用してもらうよう利用促進チラシの配布</li> </ul>				



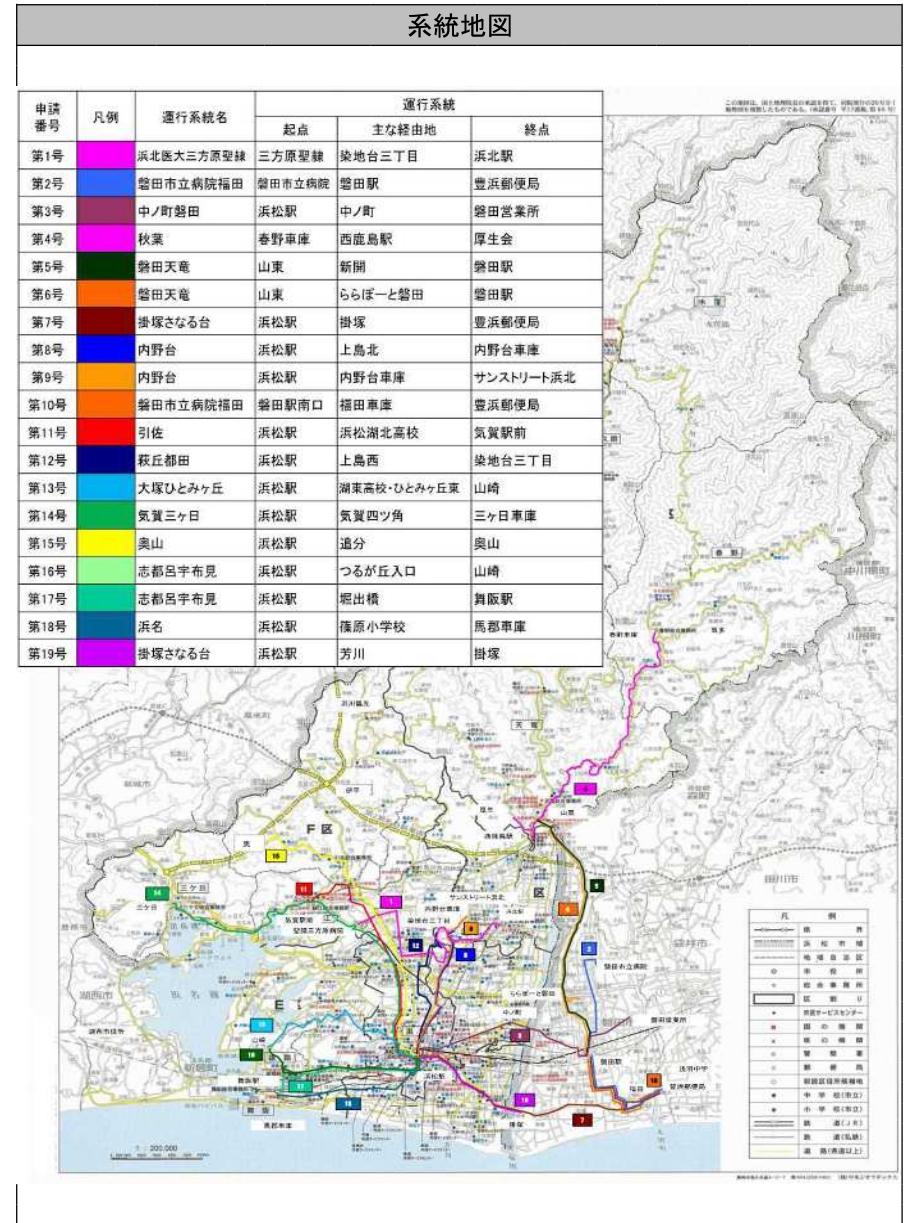
令和5年度運行分系統別利用実態（公表シート） 様式2

系統名	志都呂宇布見線			事業者名	遠州鉄道
路線の状況	起点	経由地	終点		
	浜松駅	堀出橋	舞阪駅		
系統キロ程 (km)	11.4	輸送量 (人/日)	197,3		
平均乗車密度 (人/便)	6.9	運行回数 (回/日)	28.6		
公共・拠点施設 アクセス状況	学校	浜松西高校、湖南高校、雄踏小学校、雄踏中学校			
	病院				
	商業施設	イオン浜松西店、イオンモール浜松志都呂、			
	その他	JR浜松駅、浜松商工会議所、浜松西郵便局、西区役所、雄踏図書館、JR東海浜松工場、JR舞阪駅			
収支率 (%) (収益/費用)	95.6	乗車人員 (人)	484,606		
乗換可能な アクセス拠点等	拠点2 バス停4	名称	拠点：浜松駅バスターミナル、JR舞阪駅 バス停：ザザシティ前、成子坂、イオン浜松西店入口、入野西		
広域利用状況 (%) (他市町へ行く利用者の割合)	10.6				
増収策	<p>①旅客動向の分析を行い、令和4年10月と令和5年4月にダイヤ改正を実施。                  ②ICカード乗車券のオートチャージ（自動積み増し）の利用を促進。                  ③高齢の免許返納者向けに、格安の全線定期券の販売を実施。                  ④定期券の継続購入に対して、WEBで申し込みを受け付け、営業窓口へ設置した券機にて定期券を発行するサービスを展開。                  ⑤定期券の新規購入に対して、WEBで申し込みを受け付け、営業窓口での受け渡しのほか配送で自宅や最寄りコンビニエンスストアへ届けるサービスを展開。                  ⑥大手私鉄が提供するスマートフォン用MaaSアプリにおいて、デジタルフリー乗車券を販売。</p>				
費用削減策	<p>①デジタルタコグラフから得られたデータを、半自動的に加工するソフトを活用して分析を行い、その結果を使って運転方法の指導を実施。燃料費の削減や有責事故の撲滅に努めた。                  ②営業所再編や営業日変更を実施して、人件費抑制に努めた。                  (R2年10月) 雄踏営業所と館山寺営業所を統合し浜松西営業所として再編/天竜営業所を浜松東営業所の管轄車庫として再編。天竜営業所管轄の春野車庫を廃止。                  (R3年2月) ターミナル営業所を廃止し、ターミナル営業所管轄の松江町車庫を浜松東営業所の管轄車庫として再編。                  (R3年4月) 浜松南営業所を磐田営業所の管轄車庫として再編。                  (R3年5月) 浜松駅バスターミナル窓口を毎日営業から水曜日定休に運用変更                  (R4年12月) 磐田整備センターの窓口業務終了                  (R5年1月) 整備センターの窓口営業時間の短縮 9:00~17:50 → 9:30~17:00                  ③乗務員交替作成をAIを使用し自動化することで、間接人件費の抑制と効率的な運用を実現した。</p>				
沿線市町のサポート	<ul style="list-style-type: none"> <li>障がいのある人にバス券等を交付 (7,000円/年)</li> <li>地域MM：地域交通検討会、老人クラブ等の会合で啓発</li> <li>企業MM：エコ通勤、C&amp;R等の取り組みの協力</li> <li>職員MM：エコ通勤の日設定 (毎月20日)、庁内放送</li> <li>学校MM：事業者主催のバス教室開催、乗り方DVDの配布</li> <li>来庁者MM：カウンター用椅子を利用した広告掲載、エコ通勤の呼びかけ</li> <li>幹線路線への乗り継ぎを考慮した地域バス運行ダイヤ編成</li> <li>イベント時に公共交通を利用してもらうよう利用促進チラシの配布</li> </ul>				



令和5年度運行分系統別利用実態（公表シート） 様式2

系統名	浜名線			事業者名	遠州鉄道
路線の状況	起点	経由地	終点		
	浜松駅	篠原小学校	馬郡車庫		
系統キロ程 (km)	11.4	輸送量 (人/日)	178.7		
平均乗車密度 (人/便)	5.9	運行回数 (回/日)	30.3		
公共・拠点施設 アクセス状況	学校	可美中学校、篠原小学校			
	病院				
	商業施設				
	その他	JR浜松駅、JR舞阪駅、浜松市武道館、可美市民サービスセンター、可美総合公園、スズキ本社、JR高塚駅			
収支率 (%) (収益/費用)	78.3	乗車人員 (人)	449,996		
乗換可能な アクセス拠点等	拠点3 バス停2	名称	拠点：浜松駅バスターミナル、馬郡（JR舞阪駅）、高塚（JR高塚駅） バス停：ザザシティ前、成子坂		
広域利用状況 (%) (他市町へ行く利用者の割合)	8.3				
増収策	<p>①旅客動向の分析を行い、令和4年10月と令和5年4月にダイヤ改正を実施。                  ②ICカード乗車券のオートチャージ（自動積み増し）の利用を促進。                  ③高齢の免許返納者向けに、格安の全線定期券の販売を実施。                  ④定期券の継続購入に対して、WEBで申し込みを受け付け、営業窓口へ設置した券機にて定期券を発行するサービスを展開。                  ⑤定期券の新規購入に対して、WEBで申し込みを受け付け、営業窓口での受け渡しのほか配送でご自宅や最寄りコンビニエンスストアへ届けるサービスを展開。                  ⑥大手私鉄が提供するスマートフォン用MaaSアプリにおいて、デジタルフリー乗車券を販売。</p>				
費用削減策	<p>①デジタルタコグラフから得られたデータを、半自動的に加工するソフトを活用して分析を行い、その結果を使って運転方法の指導を実施。燃料費の削減や有責事故の撲滅に努めた。                  ②営業所再編や営業日変更を実施して、人件費抑制に努めた。                  (R2年10月) 雄踏営業所と館山営業所を統合し浜松西営業所として再編/天竜営業所を浜松東営業所の管轄車庫として再編。天竜営業所管轄の春野車庫を廃止。                  (R3年2月) ターミナル営業所を廃止し、ターミナル営業所管轄の松江町車庫を浜松東営業所の管轄車庫として再編。                  (R3年4月) 浜松南営業所を磐田営業所の管轄車庫として再編。                  (R3年5月) 浜松駅バスターミナル窓口を毎日営業から水曜日定休に運用変更                  (R4年12月) 磐田整備センターの窓口業務終了                  (R5年1月) 整備センターの窓口営業時間の短縮 9:00~17:50 → 9:30~17:00                  ③乗務員交替作成をAIを使用し自動化することで、間接人件費の抑制と効率的な運用を実現した。</p>				
沿線市町のサポート	<ul style="list-style-type: none"> <li>障がいのある人にバス券等を交付（7,000円/年）</li> <li>地域MM：地域交通検討会、老人クラブ等の会合で啓発</li> <li>企業MM：エコ通勤、C&amp;R等の取り組みの協力</li> <li>職員MM：エコ通勤の日設定（毎月20日）、庁内放送</li> <li>学校MM：事業者主催のバス教室開催、乗り方DVDの配布</li> <li>来庁者MM：カウンター用椅子を利用した広告掲載、エコ通勤の呼びかけ</li> <li>幹線路線への乗り継ぎを考慮した地域バス運行ダイヤ編成</li> <li>イベント時に公共交通を利用してもらうよう利用促進チラシの配布</li> </ul>				





令和5年度運行分系統別利用実態（公表シート） 様式2

系統名	掛塚さなる台線			事業者名	遠州鉄道
路線の状況	起点	経由地	終点		
	浜松駅	芳川	掛塚		
系統キロ程 (km)	6.9	輸送量 (人/日)	137.7		
平均乗車密度 (人/便)	5.6	運行回数 (回/日)	24.8		
公共・拠点施設 アクセス状況	学校	浜松修学舎高校、芳川小学校			
	病院				
	商業施設				
	その他	JR浜松駅、アクティシ、東部協働センター			
収支率 (%) (収益/費用)	89.6	乗車人員 (人)	237,151		
乗換可能な アクセス拠点等	拠点2 バス停4	名称	拠点：浜松駅バスターミナル、掛塚（磐田市自主運行バス） バス停：アクティシ、東部協働センター、芳川西、芳川		
広域利用状況 (%) (他市町へ行く利用者の割合)	24.6				
増収策	<p>①旅客動向の分析を行い、令和4年10月と令和5年4月にダイヤ改正を実施。                  ②ICカード乗車券のオートチャージ（自動積み増し）の利用を促進。                  ③高齢の免許返納者向けに、格安の全線定期券の販売を実施。                  ④定期券の継続購入に対して、WEBで申し込みを受け付け、営業窓口へ設置した券機にて定期券を発行するサービスを展開。                  ⑤定期券の新規購入に対して、WEBで申し込みを受け付け、営業窓口での受け渡しのほか配送でご自宅や最寄りコンビニエンスストアへ届けるサービスを展開。                  ⑥大手私鉄が提供するスマートフォン用MaaSアプリにおいて、デジタルフリー乗車券を販売。</p>				
費用削減策	<p>①デジタルタコグラフから得られたデータを、半自動的に加工するソフトを活用して分析を行い、その結果を使って運転方法の指導を実施。燃料費の削減や有責事故の撲滅に努めた。                  ②営業所再編や営業日変更を実施して、人件費抑制に努めた。                  (R2年10月) 雄踏営業所と館山寺営業所を統合し浜松西営業所として再編/天竜営業所を浜松東営業所の管轄車庫として再編。天竜営業所管轄の春野車庫を廃止。                  (R3年2月) ターミナル営業所を廃止し、ターミナル営業所管轄の松江町車庫を浜松東営業所の管轄車庫として再編。                  (R3年4月) 浜松南営業所を磐田営業所の管轄車庫として再編。                  (R3年5月) 浜松駅バスターミナル窓口を毎日営業から水曜日定休に運用変更                  (R4年12月) 磐田整備センターの窓口業務終了                  (R5年1月) 整備センターの窓口営業時間の短縮 9:00~17:50 → 9:30~17:00                  ③乗務員交替作成をAIを使用し自動化することで、間接人件費の抑制と効率的な運用を実現した。</p>				
沿線市町のサポート	<ul style="list-style-type: none"> <li>障がいのある人にバス券等を交付（7,000円/年）</li> <li>地域MM：地域交通検討会、老人クラブの会合で啓発</li> <li>企業MM：エコ活動、C&amp;R等の取り組みの協力</li> <li>職員MM：エコ活動の日設定（毎月20日）、庁内放送</li> <li>学校MM：事業者主催のバス教室開催、乗り方DVDの配布</li> <li>来庁者MM：カウンター用椅子を利用した広告掲載、エコ活動の呼びかけ</li> <li>幹線路線への乗り継ぎを考慮した地域バス運行ダイヤ編成</li> <li>イベント時に公共交通を利用してもらうよう利用促進チラシの配布</li> <li>運行経費の一部負担</li> <li>市ホームページから運行事業者のホームページへのリンクを設定</li> <li>バス路線図の配属</li> <li>エコ活動の日を設定し、職員に対しバスをはじめとした公共交通機関の利用を促進</li> </ul>				

